２０２４年１月ＮＨＫ中国地方放送番組審議会

１月のＮＨＫ中国地方放送番組審議会は、１８日（木)、広島放送局において、１２人の委員が出席して開かれた。

議事に先立ち、「ＮＨＫ経営計画　2024-2026 年度」の概要についての説明があり、議事に入った。

会議では、まず、放送番組一般について活発に意見交換を行ったあと、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、２月の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委 員 長	河本　清順	（ＮＰＯ法人　シネマ尾道　代表理事）
副委員長	細野　賢治	（広島大学　大学院統合生命科学研究科　教授）
委　　員	伊澤　大介	（有限会社森の国　代表取締役社長）
	石橋千賀良	（七草農園　代表）
	岩崎　　誠	（中国新聞社　論説主幹）
	原田　尚美	（やまぐちシードル　代表）
	平野真里香	（有限会社平野屋　営業本部長）
	福安　佳子	（鳥取大学　非常勤講師）
	まつもとゆきひろ	（一般財団法人　Ｒｕｂｙアソシエーション　理事長）
	水口　昭弘	（水口電装株式会社 常務取締役）
	薬師寺明子	（美作大学　生活科学部社会福祉学科　准教授）
	渡部久仁子	（特定非営利活動法人 ANT-Hiroshima 理事）

（主な発言）

＜放送番組一般について＞

○　１２月２７日（水）の「お好みワイドひろしま」（総合 後 6:10～7:00)では、「ニュースで振り返る　広島の１年」としてハイライトを放送していた。短い時間の中ではあるが、ひろしま平和ノート改訂については、「はだしのゲン」が削除された以外にもさまざまな問題が指摘されているので、それらも取り上げたほうがよかった。また、「広島ビジョン」に関してもさまざまな意見があるにもかかわらず、取り上げられていなかった。肩書のある被爆者団体の被爆者の意見だけではなく、幅広い市民の声も

取り上げてほしい。

○　１月１２日(金)のコネクト「広島交響楽団×夢プロジェクト２０２４～若者の未来にエールを！～」(総合 後 7:30～8:42)は、広島交響楽団に光を当てたのはよかった。漫才と大道芸のコラボレーションもとてもおもしろかったが、もう少し演奏を聞きたかった。視聴率にかかわらず一つの演目を通して触れる機会があれば、公共放送としての役割をより発揮できると思うので今後に期待したい。

（ＮＨＫ側）

クラシックに興味のない子どもや若者にも興味を持ってもらうために、今回は音楽総監督とも相談しながら、曲を短くして演奏してもらい、総合テレビで放送した。ＮＨＫとしてはＥテレをはじめ、オーケストラのコンサートを中心とした本格的なクラシック番組も放送している。

○　１月１２日(金)の「お好みワイドひろしま」では活断層の専門家のインタビューがあったが、時間が短く掘り下げた伝え方ができていなかった。中国地方での活断層のリスクについて詳しい情報を伝える番組を期待している。

（ＮＨＫ側）

「お好みワイドひろしま」の中では、これまで類似の危険性については何回かに分けて伝えてきたが、この地域で必要な備えについては今後も詳しく伝えていきたい。

○　１２月２２日(金)のコネクト「広島推し！～みんなの“推し”でつくるテレビ～」(総合 後 7:30～8:42)は、いろいろな切り口で広島推しを紹介しており、とても楽しく、見応えのある番組だった。生放送らしい緊張感もあり、見ていておもしろかった。

○　１２月２２日(金)の＠ｏｋａｙａｍａ　＠ｏｋａｙａｍａ＆さんいんスペシャルあのときを取材中「鳥取＆岡山」を見た。取り上げたテーマは知らないことばかりで、特に瀬戸大橋建設で活躍した職人の視点はおもしろかった。出演者について、今回は亡くなっていた方が多かったが、もう少し健在の方が出演していたらよかったと思う。

（ＮＨＫ側）

「あのときを取材中」は、取材対象者が亡くなられているか存命かではなく、過去の映像を今の視点で見て感じること、考えられることを重視して制作していることをご理解いただきたい。

○　「あのときを取材中」は、今の時代のよいもの、安いものの二極化が進む流れの元となるであろう３０年前に、純粋に鳥取和牛のおいしさを追い求める様子や、かき養殖を支えた発明家のものづくりへの向き合い方から刺激をもらい、番組としてとてもおもしろかった。

（ＮＨＫ側）

「あのときを取材中」は、特に歴史の中での転換点を意識し、批判を浴びながら他の血統を入れ、質のよい鳥取和牛へ転換した話や、かき養殖を支えた発明家の息子が父の思いを継ぎ、ものづくりを続けている話を取り上げた。番組で重視していることを感じていただきありがたい。

○　「あのときを取材中」は、前半は食の名産を支えた人たちというテーマで、鳥取和牛と岡山のかき養殖を支えた発明家の話題は分かりやすかったが、後半の祭りと瀬戸大橋建設は、一つ一つは貴重な映像だが、一貫性を感じられず集中力が途絶えたときがあった。二つの県を並べる際には話題の共通点があったほうが見やすい。懐かしい映像とともに地域の歴史を再発見できるよい番組だが、話題の選択は工夫してほしい。また「ニッチ」という言葉の使い方は視聴者にとって分かりづらいので、なるべく避けたほうがいいのではないか。

（ＮＨＫ側）

狙いとしてあえて多様なテーマ選定をしたが、場合によってはテーマをまとめることも検討したい。「ニッチ」という言葉は、意味などを調べた上で使用したが、今後もより分かりやすい言葉で番組を作っていく。

○　「もぎたて！」では、年末の「もぎ天気」で年をまたいだクイズをしていたが、視聴者と一緒になって番組を作り上げたという一体感が出ていた。また、大学入学共通テスト前日の１月１２日（金）には丁寧な天気予報をしていたのがよかった。「三度の飯より〇〇！」のコーナーではパラアスリート・村岡桃佳選手がトークセッションを

していたが、学生たちの素直な質問に村岡さんも素直に返しており、当事者の思いが若い人に伝わってよかった。

（ＮＨＫ側）

参加感を高めるためにクイズ形式にしているが、多くの方に参加していただいた。天気は生活に密着した情報としてニュースに結び付けている。評価いただいた意見は今後の励みにしたい。

○　１月１５日(月)の「しまねっとＮＥＷＳ６１０」の「一畑百貨店最後の１日」では、最終日に集まった方や従業員とお客さんの関係など、島根県で長く暮らしている人たちにとって思い出深い情緒的な部分を強く取り上げており、よいまとめだった。経済的な面や、閉店後にどうなるのかということは島根県民や鳥取県民は関心を持っているので、これからも注目していきたい。１月１９日(金)のさんいんスペシャル「島根“唯一”の百貨店～最後の日々　そして街は～」にも期待している。

（ＮＨＫ側）

６５年の歴史を閉じる意味に重きを置いて、そこに至る皆さんの思いを中心にお伝えした。跡地がどうなるかなど解説して伝えたが、引き続き取材をしていく。

○　１月１２日(金)のさんいんスペシャル　うまいッ！「粘りを追求！甘くて濃厚　ねばりっこ～鳥取 北栄町～」(総合 後 7:30～7:53 鳥取県域・島根県域)は、北栄町の美しさがドローンで捉えられ、よい導入部だった。ねばりっこは鳥取県の特産であった砂丘ながいもの弱点を補うべく生まれたというくだりや、スプリンクラー活用が全国に広がったのは鳥取県、北栄町からという話も非常にためになった。後半ではレシピが紹介されたが、レシピはちまたにあふれている。もっと地元の生産者の情熱に焦点をあてて盛り上げることができたのではないか。ねばりっこの栄養価、砂地ならではの効用、全国シェアなどの紹介があってもよかったと感じた。

（ＮＨＫ側）

「うまいッ！」は、１１月２７日(月)に全国放送した番組を、鳥取と島根で放送した。魅力的な生産者を中心に据えたヒューマンドキュメンタリーも十分にできるという印象を持った。また、指摘いただいた番組本来のフォーマットからはみ出た気になる点を追加取材し、「いろ★ドリ」や「さんいんスペシャル」で放送する可能性も探っていきたい。

○　１月１０日(水)の「情報維新！やまぐち」で、新捕鯨母船「関鯨丸」が取り上げられていた。商業捕鯨から４年が経過し、捕鯨の文化になじみが薄い子ども世代も増えている。船ができたという話だけではなく文化についても取り上げる機会があればよいと思った。また、ニューヨーク・タイムズ紙が発表した「2024 年に行くべき５２カ所」に山口市が選ばれたことを取り上げていたが、国宝「瑠璃光寺五重塔」は改修中であるため、今後は改修中でなければ見られないポイントのＰＲも必要ではないかと思う。

（ＮＨＫ側）

動物愛護の観点から捕鯨に反対の声がありつつも、鯨は日本の伝統文化として昔から生活になくてはならないものだ。食文化も含めて後世にきちんと伝えていく必要があり、鯨との付き合いが深い山口県ならではの文化を伝えていかなければならないと思っている。

「瑠璃光寺五重塔」は、改修の状況をどの程度を見せられるかは行政も含めて考えられると思うが、その後押しをしながら訪れる方への発信を続けていきたい。一過性のブームになりがちなので、中長期的な視野でも取り上げられたらと思う。

○　１月１２日(金)のＹスペ！　離島で発見！ラストファミリー「端島」を見た。離島や地方の人口減少の問題は切実で、人口が減り経済が弱くなると活力がなくなっていく。離島を活性化していくべきなのか、コンパクトな都市にしていくべきなのかは、解決できる問題ではないが、継続して取り上げていかなければいけない課題だ。

（ＮＨＫ側）

「離島で発見！」については、山口県は全国でも上位の有人離島が多い県なので、環境保護という観点も含め発信していきたい。

○　Ｙスペ！「離島で発見！ラストファミリー」は、これから島がにぎわいそうだと期待を持てる内容でよかったが、取材先への言葉づかいなど気になる点があった。

○　１月１６日(火)の「ひるまえ直送便」の「あなたの大切なモノって何ですか？」総集編で性的マイノリティーへの理解を深める活動をしている男性の再放送があった。改めて中国地方で放送されたことはよかった。これからも継続して取材してほしい。

○　１２月１８日(月)の映像の世紀バタフライエフェクト「塩の行進　ガンジーの志を継ぐ者たち」と１２月３０日（土）の映像の世紀バタフライエフェクト「ビートルズとロックの革命」(総合 後 9:00～10:12.45)をＮＨＫプラスで見た。「ガンジーの志を継ぐ者たち」は非暴力の強さを前面に押し出しており、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻やイスラエルとハマスの戦闘などがある中で、とても印象に残った。「ビートルズとロックの革命」は人種、階級、性別、冷戦の４つの壁を取り除いたという切り口でビートルズを取り上げていたのがとてもよかった。

○　「令和６年能登半島地震」の報道では、大津波警報で避難を呼びかけるアナウンサーの呼びかけが話題になっており高く評価している。一方で、被害の実情をもっと伝えることができなかったかと思う。何かあったときに、より身近な、かつ掘り下げた災害報道ができる準備をお願いしたい。

○　１月７日(日)の【連続テレビ小説】花子とアン　総集編　前編「こぴっと、青春！」(総合 後 1:50～)の再放送が地震発生に伴い中断された。能登半島地震に伴い番組がニュースに切り替わることが多々あるが、番組が変更されてどうなるかということは、視聴者にできるだけ速やかに伝えてほしい。

○　１月１４日(日)の子育て まち育て 石見銀山物語「冬の訪れ ぽかぽかな時間」は、石見銀山で繰り広げられる石見神楽という文化や、大人と子どもをつなぐ温かい要素など、人の物語が豊富だ。親子の成長と一緒になって時の流れを感じることができた。

ＮＨＫ広島放送局
番組審議会事務局

２０２３年１２月ＮＨＫ中国地方放送番組審議会

１２月のＮＨＫ中国地方放送番組審議会は、２１日（木)、広島放送局において、１２人の委員が出席して開かれた。

議事に先立ち、５月１５日（月）に放送した「ニュースウオッチ９」報道へのＢＰＯ意見について報告があり、議事に入った。

会議では、まず、放送番組一般について活発に意見交換を行ったあと、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、１月の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委 員 長	河本　清順	（ＮＰＯ法人　シネマ尾道　代表理事）
副委員長	細野　賢治	（広島大学　大学院統合生命科学研究科　教授）
委　　員	伊澤　大介	（有限会社森の国　代表取締役社長）
	石橋千賀良	（七草農園　代表）
	岩崎　　誠	（中国新聞社　論説主幹）
	原田　尚美	（やまぐちシードル　代表）
	平野真里香	（有限会社平野屋　営業本部長）
	福安　佳子	（鳥取大学　非常勤講師）
	まつもとゆきひろ	（一般財団法人　Ｒｕｂｙアソシエーション　理事長）
	水口　昭弘	（水口電装株式会社　常務取締役）
	薬師寺明子	（美作大学　生活科学部社会福祉学科　准教授）
	渡部久仁子	（特定非営利活動法人 ANT-Hiroshima　理事）

（主な発言）

＜放送番組一般について＞

○　１２月１５日(金)のＹスペ！「戦争遺産島～山口特別編～」を見た。戦争への関心が低くなるこの時期に放送したことはよかったと思う。映像がとてもきれいで、ふだん見ることができない角度からドローンで見ることができ、また、建物もそのまま残っており、その美しさと内容の対比でより戦争の悲惨さが強調されて伝わった。元島民や回天元搭乗員の証言によって、生々しい様子も伝わり、見ごたえのある番組だった。遺跡は、保存の費用がかかったり、国や自治体の管理も難しかったりするが、映

像で残すことはとても意義があると思う。

○　Ｙスペ！「戦争遺産島」は、およそ８０年前のことを実際の声として聞けるのはあとわずかだと思うので残しておくことは必要なことだと感じた。また、ふだん使わない、戦時中に使われていた単語は補足の説明があったほうがよいと思った。

（ＮＨＫ側）

「戦争遺産島」は、ＢＳプレミアムで８月１２日(土)に放送されたものを再構成したものだ。いま話を聞ける人の声は本当に残さなければいけないと思う。また、番組で紹介することで現地に足を運んでもらえればと思っている。

○　１２月１９日(火)の「情報維新！やまぐち」の「おたよりさんぽ」のコーナーで、プロレスの団体を取り上げていたが、とても明るい話題なので、その後の活動も継続取材してほしい。今後も楽しみにしている。

○　１２月７日(木)のコネクト「“核なき世界”への航路～密着　第２回締約国会議～」は、核実験の被害者に焦点を当てて、核保有国や条約に入っていない国々を巻き込む一つの手段として､核実験被害者の救済と環境回復を考えるという視点もよかったし、ＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）を絡めたこともとてもよかった。ただ、これだけ大きな問題にしては、情報量が少なすぎたと感じた。世界でどの程度の核実験の被爆者が存在するのか、また、ＳＤＧｓの現状と、その役割の中で核をどう考えるかという基本的な情報と丁寧な説明があったらよかった。今後もこのテーマで継続的に発信されることを期待する。

（ＮＨＫ側）

コネクト「“核なき世界”」は、どういったことが話題になったか、会議のポイントはなんだったのかなどを速報という側面を強く出して放送した。一方で、じっくりと裏側を探るという視点も必要だと考えているので今後の番組に生かしていきたい。

○　コネクト「“核なき世界”への航路」では、最後にゲストの専門家が、核抑止論を切り崩していく必要があり､核抑止政策の問題･リスクを科学的に検証していくことで、核の傘は実はボロボロだったのじゃないかということをみんなが知ったらどうなるのかと投げかけていた。これを実証していき、世の中に突きつけるという流れになるととてもよいと感じた。また、アボリジニの方の発言に対して、オーストラリア政府の

代表はＮＨＫの取材には答えてくれなかったが、本人からは「オーストラリア政府は聞く姿勢があると感じている」というコメントを聞き出しており、踏み込んだ内容だったと思う。今後も深く掘り下げてもらいたい。

（ＮＨＫ側）

多様な考え方、意見がある中で、深く掘り下げながら今後も放送していきたいと思っている。

○　コネクト「“核なき世界”への航路」は、核兵器禁止条約についてわかりやすく伝えようとする工夫が感じられたが、被爆者の悲願である核兵器廃絶については、見守っていきましょうという終わり方は残念だった。ゲストの専門家の解説が分かりやすかったので、ポイントを可視化して、記憶に残るように、もう少し時間をかけて伝えてほしかった。専門家とされる人たちだけで議論するのではなく、グローバルな被爆者や市民の活動から、そうした動きが起こっているということを伝えることも必要だと思う。核なき世界を目指すために必要な事実や考え方、思考や行動につながるようなアカデミックな内容を一般的にわかりやすく伝える番組を作ってほしい。

（ＮＨＫ側）

コネクト「“核なき世界”への航路」のような番組については、関心がある人から、あまり関心がなくたまたま見た人など、多様な視聴者がいる中で、どこまでどのように伝えていくかが常に課題だと思っている。いろいろな部分を深く掘り下げ、今後の番組や企画のなかで取り上げていきたい。

○　１２月１５日(金)のコネクト　コネクト＆さんいんスペシャル「かが屋の発見！職人クエスト　砂像職人・レモン職人」を見た。中国地方にもたくさん芸人がいるが、かが屋を冠にしているのはとてもよいと思う。ふたりの印象もよく、番組自体も明るくなる雰囲気があり、楽しくテンポもよいので、幅広い年齢層で楽しめるよい番組だ。

（ＮＨＫ側）

「かが屋の発見！職人クエスト」は、今後も多くの地域でいろいろな職人の思いや仕事を紹介できればと思っている。

○　コネクト＆さんいんスペシャル「かが屋の発見!職人クエスト」は、２か所を取り扱っているが統一されたフォーマットがあり番組としておもしろかった。よい番組だと思う。

（ＮＨＫ側）

フォーマットを統一感があると捉えていただけたことは大変ありがたい。今後も試行錯誤しながら、より見やすいものを目指したい。

○　１２月１４日(木)の「ひるまえ直送便」をＮＨＫプラスで見た。「エンタメ情報」のコーナーでオススメ映画を３本取り上げていたが、予告編を全編流してくれたのは映画の内容について伝わりやすいのでとてもよかった。公開される県の紹介はあったが、具体的な劇場名があったほうがよかったと思う。

（ＮＨＫ側）

オススメ映画は、定期的に紹介している。いただいた意見は今後の参考にしたい。

○　１２月８日(金)の「お好みワイドひろしま」でのパールハーバー国立記念公園と広島平和記念公園の姉妹公園協定については、発言をなぞって両論併記するのではなく、和解や未来思考という言葉の意味や、その背景にある思想を共有するとともに、広島が今まで掲げてきた言葉や行動と比較しながら、私たちはいかにあるべきかを考察する機会を創造するような報道をしてほしい。

１２月１２日(火)の「お好みワイドひろしま」での広島市長の教育勅語の引用問題では、教育勅語とは何か、何が問題なのかを解説する必要があると感じた。また、なぜ市長が教育勅語を利用したのか、市長が教育勅語を利用して何を伝えていたのか、なぜ今まで問題にならなかったかということについても、しっかりと取材してほしい。

（ＮＨＫ側）

姉妹公園協定については、それぞれどのような立場でその協定を考えていくかということを伝えたが、これから深く掘り下げて考えていく問題だと思っている。教育勅語についても、これからどういうことができるのか議論していきたい。

○　１１月１７日(金)のコネクト「知る人ぞ知る　あのスポーツで地域課題を解決！？」は、これからの時代に合ったとてもおもしろい地域の取り組みを紹介していた。住民とうまく折り合いをつけている様子が描かれていたので、頑張っている人たちがたくさんいるという印象を受けた。女子野球チームを作るまでになった地域の紹介もあったが、盛り上がる時期が終わっても定着していくのかが気になった。

（ＮＨＫ側）

若い人たちの関心が高いスポーツを取り上げていこうと考えている。今回取り上げたスポーツは比較的小規模で立ち上げることができるが、さらにメジャーになっていく可能性を秘めており、今後も取材を続けていきたい。

今は地域を盛り上げるためにみんなが進んでやっているようだが、年月がたってもスポーツをする方、支える方、双方がよいと思える形になっているのか、見つめていかなければいけないと思っている。こうした取り組みを継続的に見ていきたい。

○　１２月８日(金)のコネクト「山下健二郎　とっておき絶景旅　倉敷から鳥取・大山へ」(総合 後7:30～8:42　中国ﾌﾞﾛｯｸ<除く山口県域>)を見た。３日間のツーリングコースでふだんはあまり取り上げられないエリアも紹介されていたのはよかった。それぞれの場面でとてもよい楽曲が挿入されていたが、曲の情報が空の色と同化して見えづらく、すぐに消えてしまったので見せ方も検討してほしい。

（ＮＨＫ側）

コネクト「とっておき絶景旅」は、今回４回目で年に１回放送しているものだ。ノーナレーションで音楽と絶景と現地の人との出会いだけで見ていくという試みをした。音楽にもディレクターのこだわりがあり、景色を見たいという意見もあると考え、楽曲情報は少し短めの時間で、あえて目立たない色にしていた。今後は、もう少し分かりやすくなるように検討したい。

○　１２月１５日(金)の@ｏｋａｙａｍａ「ライブハウスでぶちかませ！～ここがウチらのハレ舞台～」は、取材期間も長く、６か所のライブハウスにはそれぞれストーリーがあったと思うが、紹介でとどまりまとまりがなかったと感じた。

（ＮＨＫ側）

@ｏｋａｙａｍａ「ライブハウスでぶちかませ！」は、６か所のライブハウスを紹介することもあり、一つひとつのストーリーを掘り下げられなかったのは反省点でもある。なるべく多くのライブハウスを紹介することでふだんは接してくれないような若い世代に幅広く見てもらいたいという思いもあり、あえてあのような構成にしている。

○　１１月２６日(日)の倉吉市で行われた「ＮＨＫのど自慢」の予選会を観覧した。申し込み方法がオンラインになったが、夜中でも申し込めるようになったことは大変よかった。バンド演奏がなくなってしまったのは残念だ。予選会の模様を放送していたが今回はなかったのも残念だ。

（ＮＨＫ側）

「ＮＨＫのど自慢」の予選会の放送については、毎回必ず放送しているわけではないが、全体設計の中で検討していきたい。

○　１２月５日(火)のクローズアップ現代「あすのごはんが買えない・・・暮らしを脅かす“スーパー閉店”」は、交通弱者の高齢者が増えているという問題点が明確に指摘され、また、鳥取や広島の先進事例が紹介されており、よい番組だった。単に高齢者が買い物環境にアクセスできないという話ではなく、社会とのつながりを保ち病気の発生を抑えていく対策をとらなくてはならないという専門科の指摘が明快だった。全国のスーパーの数自体は増えているので、地元スーパー減少の何が問題なのかということに、地場産業ならではの役割に焦点を当てることも求められていくと感じた。

（ＮＨＫ側）

スーパー自体の規模でいえば全体的な目減り感はないかもしれないが、大手スーパーは県外との取引が多く、必ずしも地元の卸業者と取引関係が築かれている割合は多くないという事情も聞いている。地元農家の納める場所としてＪＡ系のスーパーがなくなると、大手スーパーには簡単に参入できないという部分を分かりやすく伝えられればよかった。

○　１２月１日(金)の中国！ちゅーもく！ラジオ「しまねっとラジオ」は、地域の動きや奥出雲の紹介をとてもおもしろく聞けた。番組の冒頭でメッセージを募集していたが、最後まで紹介がなかった。

（ＮＨＫ側）

メッセージが来ていなかったので紹介できなかったようだが、募集のしかたについても考えていきたい。

○　１２月１３(水)～１５日(金)の「しまねっとＮＥＷＳ６１０」での「一畑百貨店閉店まで１か月」を見た。閉店が決まったときにも取り上げていたが、今回は残り１か月という中で、百貨店に対する思い入れのある人、経済的な影響、周南市の先行事例

の紹介など、さまざまな取り上げ方をしており、とてもよいフォローアップだった。今後の「さんいんスペシャル」においては、専門家の意見など未来に向けての方向性を期待している。うまくいかなかった例も参考になるかもしれない。

（ＮＨＫ側）

未来に向けての違う視点という点は、少しでも多くの視点を入れられるように検討したい。

○　１２月１５日(金)の歴史探偵「大坂の陣　幻の大洪水」(総合　後 10:45～16 日(土)前 0:34.45)のアンコール放送を見た。自治体の水害ハザードマップなどにも使われる洪水シミュレーターを活用して、西軍が大坂城の周り一帯を水浸しにする作戦を再現しており、最新技術の応用がこれまでの歴史の定説を覆す可能性を感じる内容だった。

○　１２月２０日(水)のクローズアップ現代　放送３０周年　年末拡大ＳＰ「国谷裕子×桑子真帆～激動の時代を越えて～」(総合　後 7:30～8:42)を見て感動した。国際情勢においてのメディアの役割について言及していたのがとても印象的だった。メディアには和平の合意形成に向けての役割を期待したい。

ＮＨＫ広島放送局
番組審議会事務局

２０２３年１１月ＮＨＫ中国地方放送番組審議会

１１月のＮＨＫ中国地方放送番組審議会は、１６日（木）、広島放送局において、１２人の委員が出席して開かれた。

議事に先立ち、令和５年地上基幹放送局の再免許にあたっての総務大臣の要請の紹介があり、議事に入った。

会議では、まず、放送番組一般について活発に意見交換を行ったあと、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、１２月の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委 員 長	安彦恵里香	（Ｓｏｃｉａｌ　Ｂｏｏｋ　Ｃａｆｅハチドリ舎　店主）
副委員長	河本　清順	（ＮＰＯ法人　シネマ尾道　代表理事）
委　　員	伊澤　大介	（有限会社森の国　代表取締役社長）
	石橋千賀良	（七草農園　代表）
	岩崎　　誠	（中国新聞社　論説主幹）
	原田　尚美	（やまぐちシードル　代表）
	平野真里香	（有限会社平野屋　営業本部長）
	福安　佳子	（鳥取大学　非常勤講師）
	細野　賢治	（広島大学　大学院統合生命科学研究科　教授）
	まつもとゆきひろ	（一般財団法人　Ｒｕｂｙアソシエーション　理事長）
	水口　昭弘	（水口電装株式会社　常務取締役）
	薬師寺明子	（美作大学　生活科学部社会福祉学科　准教授）

（主な発言）

＜放送番組一般について＞

○　１０月２０日(金)の＠ｏｋａｙａｍａ「潜入！岡山機関区・貨物列車の裏側」は、初めて知ったことがたくさんあり興味深かった。軽自動車をフォークリフトでコンテナに積み込む技術には驚いたが、「もぎたて！」でも放送されており、番組にも期待していたが、それ以上の内容がなかったのが残念だった。

○　＠ｏｋａｙａｍａ「貨物列車の裏側」を見たが、「もぎたて！」で目玉となる部分が見られたのはよかったと思う。岡山県は中国・四国地方の物流拠点として重要な立地だということを番組で伝えたかったのだと思う。山の中を鉄道が通っていくための工

夫や知恵など、ふだんは表に出てこない部分に焦点を当てており、この時代でも車輪が空転しないためには、電子制御ではなく人間の感覚で砂をまくというのはとてもおもしろかった。

（ＮＨＫ側）

「もぎたて！」と「@ｏｋａｙａｍａ」の両方の時間帯を見ている人ばかりではないため、最大の見どころであるコンテナに軽自動車を収めるシーンを「もぎたて！」でも放送した。番組では編集されたシーンも多かったので、拡大版を放送する予定だ。

一つひとつのプロの作業が日本の大動脈を支えていることを伝えたいという制作者の意図が伝わっていたならよかったと思う。

○　１１月１０日(金)の@ｏｋａｙａｍａ　ザ･バックヤード　知の迷宮の裏側探訪「大原美術館」は、贋作と考えられるようになったゴッホの絵を３８年間常設展示していないことや、児島虎次郎のアトリエの中の様子など新しい面を知ることができおもしろかった。

○　１０月２７日(金)のコネクト「スーパーが消える町　～買い物危機　最前線の現場から～」では、中山間地域での問題を取り上げ、地域住民だけの取り組みだと高齢化で後が続かなくなってきており、企業、行政、住民が一緒に関わる新たな取り組みを紹介した。一方、企業が入っている以上、最後の１人になったときにいずれは助けられなくなる。そのような話を美談のように放送するのはどうだろうという印象を持った。こうしたことに向けての言及があってもよかった。

○　「スーパーが消える町」を見た。衝撃的なタイトルと交通弱者の高齢者に寄り添った導入部分は非常に共感があり引き込まれた。一方、取り上げられた二つの事例は、紹介しただけの中途半端なものになっていた。専門家がビジネスモデルの変化に触れていたが、もっと引き出せることがあったのではないかと思う。今後の展望や、選択肢を示すことに時間を配分してほしかった。

○　「スーパーが消える町」は、対策や今後の展望についてもっと取り上げてほしかった。

（ＮＨＫ側）

鳥取県ではスーパーの閉店が相次いでいる中で、どう存続できるかを探る一つの先例として取り上げたが、根本的な解決があり得る

のかと感じる部分はあると思う。指摘いただいた問題意識を制作現場とも共有する。

○　１１月１０日(金)のさんいんスペシャル「夏井いつきのよみ旅！ｉｎ鳥取　特別編」を見た。出演者の息のあった進め方と、鳥取の中と外の視点が盛り込まれていて内容的にもとてもよかった。Ｅテレはたくさんよい番組があるので今後も総合テレビでも放送してほしい。

（ＮＨＫ側）

「夏井いつきのよみ旅！」は２０２３年２月に２回に分けて放送された番組を再構成したものだ。Ｅテレで鳥取が舞台になっていても視聴者に届いていないこともあるので、地域向けにも活用していきたい。

○　１０月３１日(火)～１１月３日(金)の「にっぽん縦断　こころ旅」は、さまざまな景色を見られてよかったが、場所の選択に少し疑問があった。「こころの風景」を訪ねるというテーマはよいが、視聴者からするともう少し名勝や見ごたえのある景色を選択してほしかった。

○　１１月１０日(金)のさんいんスペシャル　さんいんスペシャル×コネクト　コネクトドキュメント「広島×島根」を見た。前半の広島県からは被爆者の男性の地道な努力と記憶を風化させてはいけないという強い意志を感じた。人を介さない保存方法を、より広めていくにはどうすればよいかという話ができるとよいと思う。後半の島根県では、自給自足でユニークな生き方をしているとは思ったが、「広島×島根」というタイトルから両県のつながりがあると思っていたが、期待していたものとは違った。

（ＮＨＫ側）

「コネクトドキュメント」は、若いディレクターの育成の意味合いもあって始めたものだが、「広島×島根」と銘打っているとつながりがあると見られるのは指摘のとおりだと思う。どのように２県の物語を提示していくのがよいか検討していきたい。また、どのように被爆者の証言を伝えていくかは被爆８０年に向けて大きな課題であり、引き続き力を入れて番組を制作していきたい。

○　コネクトドキュメント「広島×島根」は、視聴者は二つの地域が同じテーマを持っていると捉えると思う。無理にテーマをくくる必要性もないので若いディレクターを

前面に出した切り口で見せ方を変えてもいいと思う。島根の内容は映画を見ているようなドラマチックな展開だった。人間を捉えた生々しいドキュメントでよいものが撮れていたと思う。

○　コネクトドキュメント「広島×島根」を見た。「ヒロシマを語る会」を復活させたというのを新たな一歩という括りで無理やり抱き合わせたように感じた。軍人だった父親の勲章を使って戦争の狂気を伝えようとしたことは、広島に欠けがちな加害の視点なので大切だと思う。後半の島根県の山奥に住む男女のオフグリッド生活の内容では、よくポリアモリーに踏み込めたと思う。地域で取材して関係性を構築しているＮＨＫの地域職員の重要性を感じられる内容だった。

○　１０月２０日(金)のさんいんスペシャル　さんいんスペシャル×Ｙスペ！　あのときを取材中「島根×山口」は、身近な地域の事例を知るきっかけになるという視点であればとてもおもしろい番組だ。昔と今の映像を比較する取材力には感心させられ、幅広い年齢の人が楽しめるものだった。ただ、学校や動物とテーマごとにまとめていたが、少しでも関連した話題があるとそれぞれの地域にとって考えるきっかけになると思う。

○　あのときを取材中「島根×山口」は、両県を並列する目的が薄かったと思う。視聴者に見たいものを募って作っていくと見たくなると思う。山口と島根の生活圏が一緒になっていることに視聴者としても共感があり、島根県出身ゲストの「県外にいる私たちに何ができるかですよね」というコメントは、懐かしむだけではなく、今の人たちへのメッセージとしてよかったのでもう少し掘り下げてほしかった。

（ＮＨＫ側）

「あのときを取材中」は、ＮＨＫに残っているアーカイブス資料を活用し、新たに取材することにより、過去と今の様子を届けることで、若い世代にも興味を持っていただければと思っている。こちらも２県でどのように共通したところを見つけられるか検討していきたい。

○　１１月１２日(日)の子育て　まち育て　石見銀山物語「秋の足音　みんなの運動会」は、映画のような世界観だった。子育てに焦点を当て、子どもの周りの環境も含めたドラマが描かれていたのは見ていておもしろかった。「しまねっとＮＥＷＳ６１０」や「さんいんスペシャル」で移住者に対する行政支援などを取り上げれば、移住者だけではなく、地元の人も移住の流れを理解し、受け入れやすいと思う。

（ＮＨＫ側）

「しまねっとＮＥＷＳ６１０」でも移住した人についての放送はしているが、行政の細かい支援については出せていないかもしれない。ご指摘の点は今後検討していきたい。

○　１１月１０日(金)のＹスペ！「関門橋５０年　探検！知られざる世界」は、建設時の問題や現在の課題という流れもなく、橋の工法や構造など、橋自体に焦点を当てすぎたのではないかという印象を持った。北九州市と下関市にまつわる物流・交通の不便さは関門地区だけではなく本州と九州の問題だと思う。地域の環境や課題を絡めて取り上げたほうがよかったのではないかと感じた。

○　Ｙスペ！「関門橋５０年」は、情報量も多く専門的で見応えがあった。橋の部位ごとにエピソード、作業、人物を中心に取り上げられている点はよかったが、１１月１０日の「Ｙスペ！」で専門的な内容が放送され、翌週の「情報維新！やまぐち」で経済や背景のことが取り上げられていたが、逆のほうが入りやすかったと思う。番組でも橋の総工費や経済効果の要素があると、どちらかしか見られなかった人にも伝わりやすかったのではないかと思った。

（ＮＨＫ側）

「Ｙスペ！」は、橋に焦点を当てたものだったが、１０月から「情報維新！やまぐち」では北九州局と一緒に関連する企画を放送していたものの、地域の経済圏の課題や、得られたもの、失われたもの、今後どのように動いていくかなど総合的な面も必要があると思う。第二関門橋計画の動きも含めて地域が今後どう動こうとしているか継続的な取材をしていきたい。

○　１０月２１日(土)のブラタモリ「白の奇跡・秋吉台～秋吉台のヒミツは“穴”にあり？～」は、秀作の一つだった。ブラタモリは地質・地形・自然環境、歴史、現在の人の暮らしという三つがセットになったときが一番おもしろい。知らないことも多く勉強になった。１０月２８日(土) のブラタモリ「美の極み・錦帯橋～錦帯橋にはなぜ世界唯一の美しさがある？～」では、岩国市に米海兵隊岩国航空基地があることを紹介する手もあったと思う。

（ＮＨＫ側）

「ブラタモリ」は、土地のパブリックイメージがどのような背景で生まれたのかを発見する番組だ。その土地の成り立ちや、そこで生まれた産物や歴史が、今の町の姿にどうつながっているのかを探っていく。番組を通じて、普段見ている何気ない景色などが、意識を少し変えるだけで、おもしろく見えてくることを示唆できればよいと思っている。

○　「コネクト」や「お好みワイドひろしま」では番組の構成優先で円満な解決策を導く雰囲気があるので、予定調和で終わるのではなく地域固有の問題提起をする内容があってもいいと思う。パールハーバー国立記念公園との「姉妹公園」締結の問題などは掘り下げてもらいたい。

（ＮＨＫ側）

広島市長のパールハーバー訪問の件は、しっかり伝えていきたい。

○　１０月２０日(月)のコネクト「みんなの人生会議」は、自分がどういう最期を迎えていいのか決められないというところや、施設で働いている介護現場のスタッフの声をしっかり捉えており、自分自身や家族の最期について深く考えさせられた、とてもいい番組だった。

（ＮＨＫ側）

「みんなの人生会議」は、人生の最期について思っていることが、家族と医師に対して異なるという現実も捉えたが、悩んでもよいということが伝わっていたならよかったと思う。

○　１１月１１日(土)のＪｏｕｒｎｅｙｓ　ｉｎ　Ｊａｐａｎ「安芸灘とびしま海道・歴史とレモン香る島々」(総合　前9:20～9:48　広島県域)を見た。移住した地元のナビゲーターが地域の人々と交流を重ねながら信頼関係を築いており、奥深い話が聞けていた。あまり目にしない情報が提供されており、こういう番組がインバウンド向けの質の高いプロモーションになっていると感じた。

○　１０月２４日(火)の「お好みワイドひろしま」で「#ＢｅｙｏｎｄＧｅｎｄｅｒ　ジェンダーをこえて考えよう」というテーマの特集を見た。広島に欠けがちな加害の視点や広島×ジェンダーという視点を伝えるいい内容だと思った。ただ、単に未来志向にならないよう負の側面や歴史について学び未来に生かすという視点が必要だと思う。

（ＮＨＫ側）

全国的に１０月から１１月にかけて「#ＢｅｙｏｎｄＧｅｎｄｅｒ」というテーマで発信していこうというもので、「お好みワイドひろしま」でも企画を作って放送した。こうしたテーマについては継続して制作していきたい。

○　「コネクト」では地域課題をテーマとするものが少ないと感じる。2023 年を境に広島は歴史的に変わる年になるのではというぐらいアメリカを許す方向性にシフトしていっているが、今年の出来事としてしっかりとまとめて発信してほしい。

（ＮＨＫ側）

地域の課題をテーマとするものが少ないというご指摘については、来年度に向けて何をテーマに制作していくか、よく考えていきたい。

ＮＨＫ広島放送局
番組審議会事務局

２０２３年１０月ＮＨＫ中国地方放送番組審議会

１０月のＮＨＫ中国地方放送番組審議会は、１９日（木）、広島放送局において、１２人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、放送番組一般について活発に意見交換を行ったあと、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、１１月の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委 員 長	安彦恵里香	（Ｓｏｃｉａｌ　Ｂｏｏｋ　Ｃａｆｅハチドリ舎　店主）
副委員長	河本　清順	（ＮＰＯ法人　シネマ尾道　代表理事）
委　　員	伊澤　大介	（有限会社森の国　代表取締役社長）
	石橋千賀良	（七草農園　代表）
	岩崎　　誠	（中国新聞社　論説主幹）
	原田　尚美	（やまぐちシードル　代表）
	平野真里香	（有限会社平野屋　営業本部長）
	福安　佳子	（鳥取大学　非常勤講師）
	細野　賢治	（広島大学　大学院統合生命科学研究科　教授）
	まつもとゆきひろ	（一般財団法人　Ｒｕｂｙアソシエーション　理事長）
	水口　昭弘	（水口電装株式会社 常務取締役）
	薬師寺明子	（美作大学　生活科学部社会福祉学科　准教授）

（主な発言）

＜放送番組一般について＞

○　９月２２日(金)のコネクト「海外から大注目！魅惑の日本庭園」では、日本庭園を取り上げた米誌ランキングで、２０年連続で１位にランキングされている島根県足立美術館の魅力や庭師の仕事の裏側を、文字情報と画像のほか、専門家の解説で分かりやすく紹介していた。一方、番組冒頭でのランキング紹介では、コンセプトをもとにくつろぎと美の空間から選んでいることを掘り下げてもらえると、海外でなぜ評価されているのか分かりやすかったと思う。「海外から大注目！」というタイトルだったが、日本人のインタビューが多く、もう少し海外の方のことばが欲しかった。

（ＮＨＫ側）

日本庭園を取り上げた米誌ランキングで２０年連続１位というのはすごい評価だと思うが、もう少し詳しい説明があったほうがよかったとも思う。海外の方の生の声は今後の放送に向けてさらに取材を重ねている。

○　１０月６日(金)のさんいんスペシャル「ＢＥＮＴＯ　ＥＸＰＯ　島根県特集」は、島根県と弁当と国際性という取り上げ方をしており、取材力に感心した。一方、バラエティーとしてはよかったが、さんいんスペシャルとしてこの番組だけ見ると、なぜ日本語吹き替えになっているのかなど番組のねらいが明確ではなく全体的に説明不足だった。

（ＮＨＫ側）

「ＢＥＮＴＯ ＥＸＰＯ」は海外に向けた国際放送の番組だが、島根を取り上げた回を日本語に吹き替えをして放送した。唐突感を持たれないように取り組みたい。

○　１０月１０日(火)～１３日(金)に島根の「しまねっとＮＥＷＳ６１０」と鳥取の「いろ★どり」の、さんいんコラボウイークとして放送していたが、生放送らしさがあり参加している人たちにとっても、一視聴者としても見ていて面白いものだったので、今後も地域の活動を広げる形で放送してほしい。

○　「しまねっとＮＥＷＳ６１０」のさんいんコラボウイークは、島根県と鳥取県の双方を取り上げ､お互いにどのような生活をしているか､よく伝わる内容になっていた。今後のさんいんスペシャルでも、このような取り上げ方を期待したい。

（ＮＨＫ側）

夕方ニュース番組のさんいんコラボウイークは、地域の方の声を拾うことで番組が視聴者にとって身近なものになることが大切だと思っているので、伝わったのはよかったと思う。

「さんいんコラボウイーク」では島根と鳥取の接しているところを中心に取り上げた。生活圏が一緒になっているところを出すことにより、知りたい情報を伝えられるよい機会になるので、このような取り組みを続けられたらと思っている。

○　９月２９日(金)のさんいんスペシャル　さんいんスペシャル×Ｙスペ！　あのときを取材中「鳥取×山口」は、単に過去の映像の編集に偏った番組ではなく、県民に親

しみのあるトピックスを取り上げつつ、関わる人々や活動が今に受け継がれている様子が生き生きと描かれていた。地元にゆかりのあるタレントによるスタジオでの軽妙なトークや映像が、過去と現在を行き来する演出など、全体として楽しめる内容だった。数十年に一度の架け替えをしている錦帯橋を支えるバトンリレーには熱いものを感じることができた。一方、世界おもちゃ博覧会のトピックスでは、現在の子どもたちを取り巻くおもちゃの役割がどう変わってきたのかということへの掘り下げも欲しかった。今後もこういったアーカイブスを活用した取り組みに期待している。

○　さんいんスペシャル「あのときを取材中」を見た。猿まわしでは、父の思いを受け継いだ息子の思いが非常に強調されており、錦帯橋の架け替え工事についても、カンナがバトンのように強い師弟愛とともに後輩に受け継がれていくという胸が熱くなる構成になっていた。一方で、山陰柴犬やおもちゃ博覧会は歴史的な面などもう少し詳しく伝えてほしかった。

（ＮＨＫ側）

単に資料映像を紹介するだけではなく、錦帯橋では伝承や思いといった部分が過去から今へ引き継がれていること、また、世界おもちゃ博覧会では体験することに重点を置き、その思いが今へ伝わっていることを番組の中で取り上げた。それが視聴者に届いていることが分かり大変ありがたい。現在のネット環境におけるおもちゃの役割に関しては全体のバランスの中で取り上げられなかったが、今後の参考にさせていただきたい。

限られた時間の中でどのような情報を入れていくかは常に考えながら制作している。山陰柴犬やおもちゃ博覧会も、もう少し詳しい情報に言及できたらよかったと思っている。

○　１０月６日(金)のＹスペ！「青海島　春から夏」は、撮影技術の高度さと根気強く取材したことが伝わる内容だった。陸を取り上げたのは新鮮だが、タイトルからはなぜミサゴを取り上げているのかわかりにくかった。非常によい番組だったが、海洋ゴミやプラスチック汚染、温暖化による生態系の変化など、負の部分には言及されなかったので、具体的な情報や事実にも触れてもらえるとよかった。

○　Ｙスペ！「青海島」をＮＨＫプラスで見たが、放送の時期としてもう少し早ければ映像のインパクトも違ったと思う。

（ＮＨＫ側）

Ｙスペ！「青海島」は、１２月に放送を予定している「さわやか自然百景」の素材に潜水カメラマンの撮影による海中の様子も加えたものだが、番組の形態が違うためもう少し説明をしたほうがよかったと思う。自然破壊や生態系への影響については、今後検討したい。

Ｙスペ！「青海島」は撮ってすぐ出せるものではないため時期が遅れてしまったが、今後は適した時期に番組を放送できるように制作していきたい。

○　１０月１７日(火)のＮＥＷＳ ＷＥＢで「“近代日本経済の父” 渋沢栄一についての講演会 下関」を見た。取り上げている映像は日本経済の父としての位置づけがよく伝わったが、現場の雰囲気に対し、ニュースは硬く温度差があった。ただ、地域の情報を掘り起こして取材したことには感心した。

（ＮＨＫ側）

講演会のニュースは、下関支局の記者とカメラマンが、くまなく地域を巡って情報を集めている。ニュースで取り上げる際には、こうあるべきだとなりがちだが、工夫していきたい。

○　１０月６日(金)のコネクト　ぐるっと中国地方　ブラフミエ「広島“おなまえ”に秘められ謎！？」は、地名の由来を地形や歴史をたどって、今に至るところを紹介しており、とても楽しく見た。

○　「ブラフミエ」は大変勉強になったが、もっと雑学を増やしてもよかった。城、もしくは城下町に対する地元の関心がこれほど低い町は全国的にも珍しいと思う。その中で、このような番組を作っていただいたことは大変ありがたいと思う。原爆が何を消し去ったかを丹念に追うことにも十分な意味があるので、今後も特に近代化以前の広島に着目する番組を制作してほしい。

○　「ブラフミエ」は、広島城の学芸員の方が楽しそうに説明する姿から歴史が好きだと伝わるようで見ていてほほえまく、楽しかった。また、広島の名前の由来についての説のひとつは薄い情報で取り上げるべきなのか気になった。全体的にもう少し掘り下げてほしかった。

○　「ブラフミエ」を見た。城下町ができていく様は街づくりを考えるうえでは参考になった。また、小野文惠アナウンサーが、「ブラタモリですか」と尋ねられた場面で「パクリ番組です」と答えており、そうしたスタンスは見やすくて楽しいと思う。

（ＮＨＫ側）

「ブラフミエ」は、原爆だけではなく広島の歴史や雑学など、さまざまなことを今後も取り上げていきたい。

「ブラフミエ」は、全体的に薄く広くなった側面があった。どこまで掘り下げるか、どこまで全体像を言うかのバランスは視聴者によって感じ方が違うので常に課題として持っている。

○　１０月１３日(金)のコネクト　みんなのカープ県民大会議の「クライマックスシリーズ直前ＳＰ」(総合 後 7:30～8:42 広島県域)と、「ドラフト直前ＳＰ」(総合 後 10:00～11:15 広島県域)を楽しく見たが、放送時間が長いと感じた。特に後半の「ドラフト直前ＳＰ」は、直前にカープの１位指名が公表されたあとのタイミングで、ファンの最大の関心時が先に出てしまい間延びした感がある。カープに力を入れるのは当然としても、他のスポーツもしっかり取り上げてほしい。

（ＮＨＫ側）

「みんなのカープ県民大会議」は６年目だが、ふだんは「ドラフト会議直前スペシャル」と題して長い時間を使って生放送していた。今年は翌日からクライマックスシリーズ・ファーストステージの試合が始まるため第１部を「クライマックスシリーズ直前ＳＰ」と題してＡＩでシミュレーションを行い実況した。多様な意見をいただく中で来年に向けて改善していきたい。他のスポーツに関しては「お好みワイドひろしま」でも取り上げているが、ニュースも含めて全体として多様なスポーツを取り上げていけたらと思っている。

○　９月２７日(水)のＮＥＷＳ ＷＥＢ「東広島　学校給食に地元産野菜を　支援体制の説明会」を見た。地域の食を確保するための拠点として卸売市場の問題は非常に重要だと思う。分かりにくいためあまり取り上げられることがない内容を取り上げたのはとてもよかったと思う。

○　１０月１７日(火)の「お好みワイドひろしま」では「もし今、核兵器が使われたら？」という内容があったが、平和や核という取り扱いが薄くなる時期に、このような話題が入ってくることはよかった。

○　１０月６日(金)の＠ｏｋａｙａｍａ「ちょっとヤバい 岡山の交通事情」を見た。番組の中でどこまで深く触れるかは難しい面もあるが、人への気遣いまで話を膨ませていくと県全体としてよくなるかもしれないし、放送だけでは変えられない部分もあるが可能性を感じた番組だった。

○　＠ｏｋａｙａｍａ「岡山の交通事情」は、岡山ルールと用水路が多いというトピックスはよかったが、最後に慌ててまとめている感じも受け、生放送ではないほうがよかったのではないかと思った。高齢者が夜に自転車に乗るのは危険なため積極的に伝えてもらいたい。

（ＮＨＫ側）

去年、人口１０万人当たりの交通事故死者数が全国で最多だったというデータを受け、今年度から「ゼロへのＡｃｔｉｏｎ　なくそう交通事故死」というテーマでニュースでも繰り返し放送してきて、番組はそれをまとめたもの。幸い今年は上期で死者数が減少しており何らかの貢献ができたのではないかと思っているが、一方で事故数自体は増えている。今後は、なぜ危険な運転をしてしまうのかという運転する側の観点からも取材していきたい。

放送までに情報が変わる可能性がある場合は、準備が整って収録できる場合でも、生放送で構えることがある。ただ、今回の番組では、生放送の慌ただしさを感じさせる部分があったという反省点もあった。

○　１０月１７日(火)の「松本人志と世界ＬＯＶＥジャーナル」を見た。性をオープンに語ることはいいかもしれないが､なぜ日本は語れないのかという前提を無視すると、女性を話に無理やり引きずり込むような暴力的な状況をつくり出してしまう。番組にするならば、日本ではなぜ包括的性教育ができないのか番組の中に盛り込まれていなければいけない。なぜＮＨＫがこの番組を制作することになったのか疑問に思った。

○　足立紳さんが脚本の連続テレビ小説「ブギウギ」は登場人物の心が繊細に描かれている映画のようなドラマで毎回楽しみに見ている。

ＮＨＫ広島放送局
番組審議会事務局

２０２３年９月ＮＨＫ中国地方放送番組審議会

９月のＮＨＫ中国地方放送番組審議会は、２１日（木)、広島放送局において、１２人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、放送番組一般について活発に意見交換を行ったあと、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、１０月の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委 員 長	安彦恵里香	（Ｓｏｃｉａｌ　Ｂｏｏｋ　Ｃａｆｅハチドリ舎　店主）
副委員長	河本　清順	（ＮＰＯ法人　シネマ尾道　代表理事）
委　　員	伊澤　大介	（有限会社森の国　代表取締役社長）
	石橋千賀良	（七草農園　代表）
	岩崎　　誠	（中国新聞社　論説主幹）
	原田　尚美	（やまぐちシードル　代表）
	平野真里香	（有限会社平野屋　営業本部長）
	福安　佳子	（鳥取大学　非常勤講師）
	細野　賢治	（広島大学　大学院統合生命科学研究科　教授）
	まつもとゆきひろ	（一般財団法人　Ｒｕｂｙアソシエーション　理事長）
	水口　昭弘	（水口電装株式会社 常務取締役）
	薬師寺明子	（美作大学　生活科学部社会福祉学科　准教授）

（主な発言）

＜放送番組一般について＞

○　８月２５日(金)のコネクト「アニメ聖地旅　大崎下島～広島「ももへの手紙」の舞台へ～」はアニメオタクと言われるタレントの宮田俊哉さんがアニメの舞台を訪ねるシリーズの第３弾で、本当にアニメが好きな様子がひしひしと伝わるとても楽しい番組だった。放送後の地元の人がどう感じたか、ファンの若い世代が現地を訪れたなどの反響があれば教えてほしい。

（ＮＨＫ側）

この番組はアニメ好きの人や出演者のファンだけではなく、それ以外の人も見て楽しめる、地域や人々の魅力が伝わるようにしたいと思って作っている。今回はＮＨＫプラスでの配信や、全国向けに

も放送し、「舞台となった地域の魅力や住んでいる方のすてきな面が伝わってきて、実際に行ってみたくなった」という声がたくさん届いており、番組のねらいが伝わったと考えている。

○　コネクト「アニメ聖地旅」については、所属事務所の問題が出ている中、放送の時期を考えると事務所の名前を強調しなくても番組としては成り立った気がする。

○　コネクト「アニメ聖地旅」は、宮田さんの人柄や、アニメを通して地域に愛着が生まれている過程がうまく表現されており、とてもよいシリーズだと思う。今回は特に島の人たちの人柄に注目した点で秀逸だった。事務所の問題で今後このシリーズがどうなるのか心配だが、とてもよい人柄が現れている番組なのでぜひ続けてほしい。

（ＮＨＫ側）

事務所名の扱い方については、所属タレントに罪はないなど多様な意見が届いているが、被害者の心情も考慮して、今後検討していきたい。

○　８月６日(日)のＮＨＫスペシャル「原子爆弾・秘録～謎の商人とウラン争奪戦～」は、おもしろく、よく目を付けたと感服した。ただ、アフリカの鉱山の取材は制約もあったと思うが、もう少し掘り下げてほしかった。

○　ＮＨＫスペシャル「原子爆弾・秘録」では、原爆を投下することは戦争を早く終わらせるためではなく、同盟国や敵対国に対する交渉の切り札になると考えていたのだと、アメリカの専門家が発言したことがとても重要だと感じた。この話が広く知られるとよいと思う。

（ＮＨＫ側）

ＮＨＫスペシャル「原子爆弾・秘録」については、いろいろな背景をお伝えすることによって、今後に生かしていただけるような番組を目指した。今後もそうした番組を作っていきたい。

○　８月４日(金)のアナザーストーリーズ　運命の分岐点「オバマ大統領　広島の地へ～歴史的訪問の舞台裏～」(広島県域)の再放送を見たが、出演したジャーナリストの見解に沿って、オバマ訪問とともに広島が歴史的な和解を果たしたというストーリーには違和感を覚えた。

○　８月１５日(火)のＮＨＫスペシャル「Ｚ世代と“戦争”」(総合 後7:30～8:42)を見た。ゲストの発言の軽さが浮いており、また、Ｚ世代へのアンケートの設問内容がずれていると感じた。ウクライナ出身のディレクターの、侵攻されたら戦わざるを得ないという方向に誘導するような授業がとても不自然に感じ、その流れで「戦争になったら自分は戦う」と発言するＺ世代の人が出てきてしまう展開もひどいと思った。戦争を語るうえでは政治の話が必要になるが、それが一切なかったことも疑問に感じた。

９月１１日(月)のクローズアップ現代「“ジャニーズ性加害”とメディア　被害にどう向き合うのか」で、ジャニーズ事務所の問題を知りながら、タレントを使い続けたことの検証をしたことはよかったが、ＮＨＫとしては犯罪に対策するという考えをしっかりと持ち、相応の取り扱いを続けてほしい。

（ＮＨＫ側）

ジャニーズ事務所の問題については、性加害が犯罪であるという前提のもと、被害者への救済と今後の再発防止に役立つ番組を考えていきたいと思っている。

○　９月１５日(金)の「もぎたて！」で、ハンセン病の療養所の園歌で、民族浄化などについて歌わせていたことを調べている歌手の方を取材していた。元患者の高齢化が進んでいるため、このことはとても有意義で、伝えていくことも大切なことだ。「@ｏｋａｙａｍａ」でも扱うことができるのではないかと思った。

（ＮＨＫ側）

ハンセン病療養所の話題は、「民族浄化」などの言葉が入った歌を元患者たちに歌わせることで、心をコントロールしようとしていたことがかいま見え、非常に複雑な思いや怖さを感じるものだった。さらに取材を続けたいと思っており、今後は番組展開の可能性もある。

○　９月１日(金)の@ｏｋａｙａｍａ「ザ・穴場ツアー～岡山・倉敷てくてく旅♪美観地区編～」では、生活がそのまま生き方になっている昔ながらの日本の文化を今も続けている様子を見ることができた。また、手作りではなく手仕事としてしっかり取り組む必要性を見せてくれたこともよかった。地域に根付いた話を今後も期待している。

○　９月１５日(金)のコネクト「ぐるっと中国地方　ブラフミエ　鳥取“カレー王国”の秘密」は、カレー用の米が作られているなど知らないこともあり、おもしろかった。

家計調査は非常に奥が深い。地域の食文化とまた違う次元で盛り上げることの是非もあるので、今後も多角的に掘り下げてもらいたい。

（ＮＨＫ側）

コネクト「鳥取“カレー王国”の秘密」については、多面的な切り口で取材をし、鳥取の地域のカレー文化が盛り上がっていることが事実だと考えて紹介した。

○　コネクト「鳥取“カレー王国”の秘密」を見た。“カレー王国”の根拠となった家計調査のように、何かきっかけがあるとそれをテーマに産業振興しようという動きが出るのは当然で、そうした街おこしの視点であることも含めて描写されていたので、エンターテインメントとして好感が持てる非常によい番組だった。

○　コネクト「鳥取“カレー王国”の秘密」は、知らないことばかりで、特に紹介されたらっきょうの食べ方はふだん私たちがしないもので、驚くことがたくさんあった。

（ＮＨＫ側）

らっきょうの食べ方については、地元のらっきょう農家の方たちがよく行う食べ方ということだった。今回は、家計調査をきっかけに産業振興をがんばっている人たちがいるということを伝えた。

○　９月２０日(水)の「しまねっとＮＥＷＳ６１０」で、茶道とサウナが楽しめる施設が松江にオープンしたニュースを見た。茶道は日本の文化として大切にしてほしい分野で、これから献茶式がある、出雲大社や津和野の太皷谷稲成神社なども取り上げてほしい。また、美郷町とバリ島の交流があったことを初めて知った。これから開催する関連イベントの紹介があったこともうれしい。地方にいるとイベントを紹介するサイトが少ないので、今後も発信してほしい。

９月６日(水)の美の壺「いつも傍らに「土瓶と急須」」を見た。使い手と作り手の視点から魅力を紹介する、とてもよい番組だった。急須でお茶を入れることが、新しい文化として楽しむことにつながってほしい。

（ＮＨＫ側）

島根県はお茶が日常にあるので、機会をとらえて今後も紹介できればと思っている。また、イベントについても終わった情報ではなく、これから開催されるものの紹介ができたことはよかった。今年度から「しまねっと」では地元の方が隠岐でのイベントを紹介する

コーナーも設けており、今後もさまざまな地域のイベント情報を発信できればと考えている。

○　８月６日(日)の「令和５年　広島平和記念式典」(総合 前 8:00～8:55)は、子どもたちの純粋で力強い声が心に響いた。
　ＮＨＫオンデマンドで９月１０日(日)のＤｅａｒにっぽん「里山でみつけたもの～鳥取　希少生物を守る日々で～」を見た。福岡出身の若者が鳥取の希少な動植物を発見し、その保全のため活動しているポジティブな面と、内側の不安定な面の両面を強調されていて、焦点がぶれている印象を持った。

○　Ｄｅａｒにっぽん「里山でみつけたもの」を見たが、何を伝えたいのかがよく分からなかった。この番組が伝えたいことや注目する内容の紹介が最初にあると、心構えを持って見ることができたと思う。番組の趣旨を踏まえると、絶滅危惧種などの紹介よりも、地元の方との関わり方や主人公の心の動きに特化して描いてもよかったのではないか。

（ＮＨＫ側）

「Ｄｅａｒにっぽん」の主人公は、１年前に「いろ★ドリ」で放送しているコーナー「精鋭」で取り上げて、自然を再生させるために奮闘する若者の側面に注目した。今回は、そこからさらに彼がなぜここまで打ち込むのか、生い立ちや歩みを交えて描くことを目指したが、内面まで深めることができなかった部分があったと思う。頂いたご意見を今後に生かしたい。

○　９月１日(金)のさんいんスペシャル「知られざる伯桜鵬～鳥取で磨かれた強さのヒミツ～」は、伯桜鵬の小・中・高校時代の監督たちに密着し、どんな少年だったのかを足で稼いで取材したのがよかった。ＢＧＭや映像効果からも快進撃を盛り上げる意図が感じられ、ますます応援したくなった。他の知られざる選手にも着目してほしい。

（ＮＨＫ側）

さんいんスペシャル「知られざる伯桜鵬」については、鳥取局では彼を小学生のころから注目し、撮りためていた映像があったので、１０年近く彼が相撲に打ち込んできた過程を振り返り、そこに少年時代の指導者の方の見方を交えるなどして制作した。これから台頭してくるかもしれない地元のアスリートにも着目し、元気や勇気を与える方を発掘して描いていきたい。

○　７月２８日(金)のＹスペ！　うまいッ！「たまげる大きさ！たまげる美味！萩たまげなす～山口・萩市～」を見た。山口ブランドの野菜に焦点を当て、地域産業の振興になったと思う。ただ、萩の食材を取り上げることが続いている印象だ。今回の再放送のタイミングではたまげなすの出荷がないということで、もったいなく思った。今後も県内農産物の栽培の裏側や、おいしい食べ方を伝えてほしい。

８月１日(火)から８月２２日(火)にかけて、昼のニュースや「情報維新！やまぐち」で１３回放送された、「山口県に残る戦跡」のシリーズを見た。地元山口の戦時の暮らしや様子を知ることができて、戦争を身近に感じ、命の尊さや平和の大切さを改めて考えた。

この夏は山口でも降雨量が多く、「ＮＨＫニュース・防災アプリ」を活用した。雨雲レーダーの精度が高く、ピンポイントで５分ごとの予測が的中しており使い勝手がよかった。ニュースとも連動しており情報を得るのに大変便利だった。

（ＮＨＫ側）

「うまいッ！」の、たまげなすについては、時期を見極めての放送を心がけなければと感じた。地域の特産物を深掘りするので、地元の方からすると地場産品のよさの再発見にもつながると思う。

戦争戦跡は、記者の強い思いがあって制作したものだ。山口県には各地に戦争の爪痕が残っており、戦争の負の遺産をきちんと後世につないでいく、コンパクトにまとめられたよい企画だったと思っている。紹介しきれなかったものもあるので、「情報維新！やまぐち」などで紹介できればと思う。

○　９月１４日（木）の「お好みワイド広島」をＮＨＫプラスで見た。マツダのロータリーエンジンが１１年ぶりに復活したというニュースだったが、地域経済との関わりや、ロータリーエンジンを発電機として使うハイブリッド車の可能性などを掘り下げて、ドキュメンタリー番組にしてもよいと思う。

（ＮＨＫ側）

短い時間の中でどう伝えるかという部分で、指摘のあったような掘り下げはしていなかったが、ガソリンではなく他の燃料だったらどうなるかなど、さまざまな観点があると思っているので、今後どうするか考えていきたい。

ＮＨＫ広島放送局
番組審議会事務局

２０２３年７月ＮＨＫ中国地方放送番組審議会

７月のＮＨＫ中国地方放送番組審議会は、２０日（木）、広島放送局において、１２人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、２０２３年度後半期の国内放送番組の編成について説明があり、２０２４年度の番組改定も含めて意見交換を行った。続いて、放送番組一般について活発に意見交換を行った。

最後に、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、８月の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委 員 長	安彦恵里香	（Ｓｏｃｉａｌ　Ｂｏｏｋ　Ｃａｆｅハチドリ舎　店主）
副委員長	河本　清順	（ＮＰＯ法人　シネマ尾道　代表理事）
委　　員	伊澤　大介	（有限会社森の国　代表取締役社長）
	石橋千賀良	（七草農園　代表）
	岩崎　　誠	（中国新聞社　論説主幹）
	原田　尚美	（やまぐちシードル　代表）
	平野真里香	（有限会社平野屋　営業本部長）
	福安　佳子	（鳥取大学　非常勤講師）
	細野　賢治	（広島大学　大学院統合生命科学研究科　教授）
	まつもとゆきひろ	（一般財団法人　Ｒｕｂｙアソシエーション　理事長）
	水口　昭弘	（水口電装株式会社 常務取締役）
	薬師寺明子	（美作大学　生活科学部社会福祉学科　准教授）

（主な発言）

＜「２０２３年度後半期の国内放送番組の編成」について＞

○　ＢＳが２波に削減となるのは３波が多すぎたということなのか。また削減によって受信料の値下げとなったのか。

（ＮＨＫ側）

現在のＮＨＫ経営計画（2021-2023 年度）において、スリムで強靭（じん）な「新しいＮＨＫ」となることを目指すと掲げており、多すぎたということではなく、もう少しコンパクトにできるのではな

いかという議論の中で衛星波は１波を削減することになり、ＢＳ１とＢＳプレミアムが実際に凝縮できたと考えている。波の削減のみが値下げにつながっているわけではないが、受信料は１０月から値下げとなる。

○　ＢＳプレミアムのチャンネルは今後どうなるのか。

（ＮＨＫ側）

３月末で停波となり、チャンネルとしてはなくなる。

○　大リーグなどの中継はどうなるのか。

（ＮＨＫ側）

４月以降のスポーツシーズンに大リーグやプロ野球の中継をどうするかについては検討を始めている。

＜「２０２４年度の番組改定」について＞

○　手話放送が増えることはすばらしいと思う。健常者では気付きにくい、よりよくできることがほかにもあるのではないかと感じている。

（ＮＨＫ側）

手話放送はユニバーサルサービスとして取り組んでいかなければならない部分で、2023 年度後半期の改定で総合テレビのニュースに手話を付けたのは初めてとなるが、こうしたサービスは大切にしていきたいと考えている。

＜放送番組一般について＞

○　６月２３日(金)のコネクト「ブラフミエ　“晴れの国”岡山のヒミツ」では、岡山県が“晴れの国”と言われる根拠がわかり、とてもしっくりときた。雨が少ない土地ならではの技術が発展し、現在の果樹栽培にもつながっているという話も勉強になった。

６月３０日(金)の@ｏｋａｙａｍａ「復興のその先へ～真備町の５年～」を見て、

たくさんの感動秘話やはるな愛さんの人となりにも感動しつつ、“晴れの国”の裏返しで豪雨災害にも見舞われる地域だということも、十分理解しなければいけないと思った。避難訓練など個人で対応できる部分以外の、行政面についてももう少し紹介してもらえるとよかった。

（ＮＨＫ側）

「ブラフミエ」は今年度、中国地方の各県を１回ずつ訪れる予定をしている。岡山県の“晴れの国”については、実際に晴れている日や日照時間は全国でも中位程度だったが、そこからいろいろなことを解き明かすと、地元の人たちも意外と知らないことがあると分かった。

はるな愛さんは番組のほかに、何度も真備町でボランティア活動をされており、かなり人間関係ができていたので、出演いただいた家族の方たちもテレビカメラをあまり意識せず、ご自身の思いをお話しいただけた。災害を乗り越えて生活を再建していく方々の明るい面を感じる番組だったと思う。一方で、高梁川に合流する小田川が内水氾濫を起こすという根本的な問題もあり、現在小田川の付け替え工事が行われていることなども、しっかりと取材して伝える番組も必要だと感じた。

○　７月２０日(木)のあさイチ「愛(め)でたいｎｉｐｐｏｎ　でえれぇおもれぇ！知らない岡山」で、そずり肉をそずっている様子は初めて見たのでおもしろかった。

「もぎたて！」で西日本豪雨関連のことを２週間ほど取り上げており、継続することで視聴者の意識を新たにすることができる一方で、夕食時に毎日放送されることでしんどさを感じる人もいると思う。「見る、知る、水害」では、過去の水害による被災状況の映像を短時間で放送してくれるのはよいと思う。また、民放と共同で取り組んでいるというＰＲを民放でもＮＨＫでもしていたと思うが、取り組みは理解できるが具体的なものがわからなかった。

７月４日(火)の「もぎたて！」では、豪雨を教訓にＢＣＰを策定という話題を取り上げていたが、事業継続計画ということばの解説があったほうが年配の方も理解できたのではないかと思う。

７月１１日(火)の「もぎたて！」の伯備線の貨物列車のリポートを興味深く見た。最後の貨物列車と新幹線が重なる映像はよかった。

（ＮＨＫ側）

民放との連携については放送で繰り返し伝えていたが、企画についての具体的なＰＲは足りなかったと感じている。制作されたものも民放とＮＨＫとで雰囲気の大きな違いはなく、放送だけでは分からなかったところは反省点だ。「見る、知る、水害」は西日本豪雨から５年の７月で終わりではなく、台風時期への警戒の意味を含め、放送は継続していきたい。

○　６月２３日(金)のさんいんスペシャル「島根唯一の“百貨店”閉店～影響と今後は～」は、発表から１０日という短期間にも関わらず多くの情報があり、さすがだなと思いながら見た。番組からは悲観するだけではなく次に何ができるのか、みんなで一緒に頑張ろうというメッセージが感じられた。番組に出演した地域経済の専門家は、どういう基準で選ばれたのかが気になった。

○　さんいんスペシャル「島根唯一の“百貨店”閉店」は、単に閉店が残念だというだけではなく､その後どういう手を打つかという専門家の意見を聞く機会があったのは、前向きになるという観点で非常によかった。ただ、唯一の解決策はないと思うので、複数の専門家から前向きな話を聞くことができるとよりよかった。百貨店がなくなった島根県、あるいは他地域も含めて何ができるのか、解説も含めた続報を期待している。

○　さんいんスペシャル「島根唯一の“百貨店”閉店」をＮＨＫプラスで見た。専門家から前向きな提案があったのはとてもよかった。どのようにまちの将来を考えていくのかを、地元企業や市民だけが頑張るのではなく、行政も含めて、方向性が一緒かどうかがとても大事だと思った。

（ＮＨＫ側）

「島根唯一の“百貨店”閉店」について、短期間での取材をお褒めいただき大変ありがたい。百貨店がなくなることが県民にとって気分が落ちこみかねないニュースでもあるので、それをどのように解決につなげていくのかに焦点を置いて放送した。来年１月の百貨店閉店まで「しまねっと」で続報をお伝えし、閉店時には改めて、社会の状況の移り変わりなどの背景も併せて番組としても放送したい。

○　６月３０日(金)のさんいんスペシャル　さんいんスペシャル×コネクト「かが屋の発見！職人クエスト　ＱＵＥＳＴ１」を見た。番組自体はとても分かりやすかったが、

お笑いコンビの「かが屋」を知らない人のためにも、サブタイトルで何の職人を紹介するのかが分かるとよりよかった。

７月１４日(金)のさんいんスペシャル「島で生きるわたしたち～隠岐島前高校　島留学物語～」を見た。物語とタイトルにあるので「子育て　まち育て　石見銀山物語」のように続編があるのかと楽しみにしている。

「しまねっとＮＥＷＳ６１０」は、島根県全体の話題から身近な地域の情報まで元気よく伝えてくれて楽しく見ている。海の事故が多くなっているので、県外からの遊泳者向けにも具体的な安全対策を伝えてほしい。

（ＮＨＫ側）

「かが屋の発見！職人クエスト」は広島と各県で２つの場所の変わった職人を探すというテーマで今年度から始めたが、試行錯誤の段階で番組の趣旨がタイトルから抜けてしまった。頂いたご意見を今後の改善につなげたい。

「島で生きるわたしたち」については引き続き取材して「しまねっと」の中でも紹介できればと考えている。

「しまねっと」については、西部地区も非常に重要だと認識しており、そのための体制を組んでいる。海難事故については、今後しっかりと取材をしたうえで予防策をお伝えしたい。

○　６月１６日(金)のさんいんスペシャル「やっぱり二人で生きたい　認知症の妻へ送る手紙」を見た。老後、介護、夫婦の在り方、病気との付き合い方などいずれ訪れることで、冒頭は重いテーマなのかと思ったが、夫婦の愛情と幸せな日々の気持ちがにじみ出ているように感じる内容だった。やさしくシンプルな語り口で淡々と進むことで、視聴者が自分ごととして受け止めやすいメッセージになっていた。タイトルについては番組を見ようと思う人が限定されてしまったかもしれず、より多くの人に見てもらえる工夫があればよいと思った。

○　さんいんスペシャル「やっぱり二人で生きたい」を見た。コロナ禍で入院した家族と面会できない時期が続いたが、愛情をもって手紙を書き続けるというすてきな夫婦のドキュメントだった。

（ＮＨＫ側）

「やっぱり二人で生きたい」は、反響が大きかった「いろ★ドリ」のリポートを２５分に拡大したものだ。丁寧に日常を深く見つめる作りにしたことで、視聴者に感情移入してもらえたのはよかった。

○　７月１９日(水)の７時２０分からのラジオ第１での広島放送局のニュースを聞いたが、アナウンサーが手にしたばかりの原稿を初めて読むような感じでは、聴取者に内容が伝わらない。聞き逃しや見逃しに注力されているように感じるが、残るものも残らないものも全力で制作して、放送の瞬間を大切に報道してほしい。

（ＮＨＫ側）

ご指摘いただいた点は真摯に受け止め、しっかりと指導していく。

○　６月３０日(金)のＹスペ！「おたよりさんぽスペシャル　地域の暮らしに笑顔あふれて」を見た。列車の模型を身近にあるものを材料にして作っていたが、本気でこれを作っていることがかえって新鮮に感じられた。生産性や効率を考えると絶対にできないことだが、ものづくりをする若い子にとっては、一見無駄に見えるようなものを、本気で作ることが大事だということを伝えていくのはよいと思った。

（ＮＨＫ側）

「おたよりさんぽ」は、年間５回まとめて放送する予定だ。あまり大きな話題にはなっていないけれども、こういう人たちがいるというおたよりをもとに、地域に喜ばれている人たちの表情を伝えていきたい。

○　７月１４日(金)Ｙスペ！「いかちゃんと行く！ぶちうまレシピ旅」を見た。知らないこともたくさんあり楽しく気楽に視聴したが、「ぶちうまレシピ」として３品紹介されたが、定義がよく分からず、全体の統一感がないように思った。また、地元出身の芸人を起用して何を伝えたかったのかと疑問に思った。

○　Ｙスペ！「ぶちうまレシピ旅」は、リポーターの芸人を知らなかったので、あまり内容が入ってこなかった。紹介されたアジのピザや千石台の大根のレシピは、あまり作って食べたい感じがしなかったものの、徳山の屋台のおすすめのカレーラーメンは食べてみたいと思った。やみつき巻きについては背景を含め、もう少し掘り下げて紹介してほしかった。

（ＮＨＫ側）

「ぶちうま」は、県産の農産物を使って自炊をしませんかというコンセプトだが、まずは県内産の大根、アジを扱った。３品目は屋台がなくなっていくことも含めて、地域に愛されている屋台の味を

家庭で味わうという意味合いで入れていたが、流れとして唐突に感じられたかもしれない。番組の中ではアレンジしたものも地元では考えているという紹介の面もあったので、食べてみたいと思っていただければ意図としては良かったと思う。リポーターは地元出身の親しみやすいキャラクターということで起用したが、次回はみんなと一緒に味わい、楽しんでいるところを演出的にもっと出していきたい。

○　山口でも大雨が続き、車が流されて亡くなる方がいた。それを受けて「情報維新！やまぐち」でも、水没した車から脱出する方法を紹介しており、今後も起き得る水の事故への対策をすぐに取り上げられたことはよかった。熱中症予防の啓発も引き続き伝えてほしい。

（ＮＨＫ側）

大雨による水害については、被害があった地域がどのように復興していくのか、また、今後の台風時期もあるので、警戒も含めて身近な役立つ情報を伝えている。

○　７月７日(金)のコネクト「“復旧”のその先へ～西日本豪雨から５年～」は、非常に分かりやすい内容だったが、簡略化し過ぎて情報量が足りない印象を受けた。西日本豪雨は非常に広範囲に影響し、かつ現象としても複雑化した災害だった。特に真備町のケースは広島とは違う様相だったので、それを紹介せずに共通した災害の教訓だけを引き出すのは無理があると思う。ゲストの土砂災害の専門家への質疑では、土砂災害や特別警戒区域に対する在り方を掘り下げていくような、もう少し専門的なやり取りがあってもよかった。さらには、山口県、島根県の豪雨災害が進行している中での生放送としては、やや緊迫感に欠けた。

（ＮＨＫ側）

「“復旧”のその先へ」について、限られた放送時間の中でどこまで掘り下げるか、もしくは総論的に全体像を紹介するかは、常に悩みつつ番組を制作している。５年たつと被災地のインフラ整備はかなり進んできているが、実際はインフラが整ったからといって、被災した人たちの暮らしや思いは元どおりになったわけではないことを、改めて身近に感じてもらえればという趣旨で制作した。一方で、「お好みワイド」などで掘り下げた内容を紹介するなど多面的に紹介することを考えている。

○　コネクト「“復旧”のその先へ」を見た。真備町の介護施設の方が言われた「ふだんの人と人のつながりの延長上に防災がある」ということばがこの番組の最も重要なキーワードだったと思うが、その後のスタジオ部分で触れずに終わってしまった。農村再生や地域づくりの観点から見てもこの点は掘り下げてほしかった。

（ＮＨＫ側）

生放送の限られた時間で取捨選択する中で、今回のような形になった。頂いたご指摘は共有させていただく。

○　７月１４日(金)のコネクト　コネクト×@ｏｋａｙａｍａ「コネクトドキュメント広島×岡山」は、わかりやすい作りになっていたが、短い時間に２つのドキュメントがあることで、１つずつが薄く感じてしまった。岡山の３人の女子高校生のほうは、自分たちのリアルな声のナレーションに聞こえたが、広島のアイドルを目指す姉妹のナレーションには少し演出を感じて、全体的に本当にこの姉妹のことばなのか疑問を持った。また、冒頭のアナウンサーが本を探すシーンは、演出の意図が分からなかった。今後ほかの県との組み合わせを楽しみにしている。

（ＮＨＫ側）

「コネクトドキュメント　広島×岡山」は、若手育成枠として立ち上げたもので、年間３本の放送を予定しており、今回は広島と岡山の若手ディレクターが制作した。プロデューサーから演出に関してあえて細かく意見や指示を出さず、若手の自由な考え方で作ってもらおうという思いも込めている。限られた時間の中では、取材の実感の中からディレクターがナレーション案を提示し、主人公の意見をもとに原稿を仕上げている。今後、別の演出も検討していきたい。

○　「コネクトドキュメント　広島×岡山」を見た。広島の姉妹が最後に言っていた、アイドルとは別の大切なことを見つけたというコメントはよかったが、もっと具体的に何かがわかるエンディングだとよかった。若い女性たちをブランド化して消費するようなことに関しては、その人の人生を利用していないかどうかという視点を、制作する側が共有して持っておくことが大事だ。そういう意味ではＪＫという、年代を特定することばは安易に使用しないほうがよい。また、ただの仲よしではなく、目的を

達成しようとする仲間同士だと表現されており、さらに、自分たちは社会を変える力があるというメッセージが、番組を通して希望として伝わるのはよかった。

（ＮＨＫ側）

岡山のドキュメントは若いディレクターが３人の女子高校生と一緒に、彼女たちを観察させていただいたようなドキュメントになっている。ＪＫという単語は、本人たちが使用していることも含め、ことばについての検討はしたうえで、今回はあえて使用した。

○　６月２６日(月)のハートネットＴＶ「ルーツをめぐる旅の先に　ＳＮＳ上のヘイトを問う」を見た。フォトジャーナリスト安田菜津紀さんのルーツの旅を通して、在日コリアンへの不当な差別について知ることができた。何も悪いことをしていない人たちが隠れたり逃げたりする必要はなく、加害者がおかしいのだというメッセージがしっかりと伝わってきて大変すばらしかった。

ＮＨＫ広島放送局
番組審議会事務局

２０２３年６月ＮＨＫ中国地方放送番組審議会

６月のＮＨＫ中国地方放送番組審議会は、１５日（木）、松江放送局において、１２人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、「２０２２年度中国地方放送番組の種別ごとの放送時間」について、報告があった。続いて、放送番組一般について活発に意見交換を行ったあと、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、７月の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委 員 長	安彦恵里香	（Ｓｏｃｉａｌ　Ｂｏｏｋ　Ｃａｆｅハチドリ舎　店主）
副委員長	河本　清順	（ＮＰＯ法人　シネマ尾道　代表理事）
委　　員	伊澤　大介	（有限会社森の国　代表取締役社長）
	石橋千賀良	（七草農園　代表）
	岩崎　　誠	（中国新聞社　論説主幹）
	原田　尚美	（やまぐちシードル　代表）
	平野真里香	（有限会社平野屋　営業本部長）
	福安　佳子	（鳥取大学　非常勤講師）
	細野　賢治	（広島大学　大学院統合生命科学研究科　教授）
	松浦奈津子	（株式会社Ａｒｃｈｉｓ　代表取締役社長）
	まつもとゆきひろ	（一般財団法人　Ｒｕｂｙアソシエーション　理事長）
	薬師寺明子	（美作大学　生活科学部社会福祉学科　准教授）

（主な発言）

＜放送番組一般について＞

○　５月２７日(土)の@ｏｋａｙａｍａ「懐かしの味にひかれて　～巨大な駄菓子売り場～」（総合 前7:30～7:55 岡山県域）を見た。岡山で有名な駄菓子店に他県から多くの人が来ていることに驚いた。大人が楽しむ様子もおもしろく、さまざまな人生が切り取られていたように感じた。「ドキュメント７２時間」に似た構成だったが、違いは地域の祭りに配る駄菓子を買いに来た男性の地元にまで取材に行ったことで、コロナ禍で４年ぶりに開かれた祭りを喜ぶ子どもたちの様子にも感慨を覚えた。ただ、ナレーションまで「ドキュメント７２時間」に似せたのには違和感があった。

６月９日(金)の@ｏｋａｙａｍａ「ザ・穴場ツアー　～岡山・倉敷てくてく旅♪　鉄道＆真備の威力満開編～」を見た。元となった「ザ・穴場ツアー　ＣＡＴＶネットワーク」は知らなかったが、岡山県でも知る人ぞ知る水島臨海鉄道が取り上げられたのはよかった。西日本豪雨で水につかった写真を修復するボランティア活動を取り上げ

た場面では、活動する人と修復を依頼した人の両方を取材したのがよかった。
　６月１３日(水)のもぎたて！「まちチェン」のコーナーで紹介された岡山臨港鉄道のことは知らず、当時を知る地域の人や年配の人に喜ばれたと思う。

（ＮＨＫ側）

「懐かしの味にひかれて」は、ふだんニュース取材を担当しているカメラマン３人が提案した。３人で協力しながら取材相手へのインタビューも自分たちで行い、さまざまな人間模様を描けたと思う。
　「ザ・穴場ツアー」は、もとはＢＳプレミアムの番組で、地域に密着したケーブルテレビの方々から情報を得て地域の「穴場」を訪ねた。なかなか取り上げることのない水島臨海鉄道や、傷んだ写真を洗浄するボランティアなど真備での継続的な活動をあらためて紹介することができてよかった。
　もぎたて！「まちチェン」のコーナーを放送することで、視聴者から昔の写真が投稿されるようになり、よい流れが生まれている。引き続き充実させていきたい。

○　@ｏｋａｙａｍａ「懐かしの味にひかれて　～巨大な駄菓子売り場～」を見た。駄菓子屋といえば学校帰りに小銭を持って行く下町の小さな店を想像するところを、倉庫のような店内に駄菓子が並ぶその迫力や、大人が万単位の金額で買うのも初めて見る光景でおもしろかった。駄菓子は子どものものというイメージがある中で、大人の心を動かして県外からも車で来るような場所を作ったことに感心した。駄菓子は世代によって好みが異なることや、悲しい記憶も含めて懐かしさを思い起こさせる存在であることがよく描かれていた。店名に「日本一」が入っていたので、具体的に何が日本一か紹介すると分かりやすいと思った。この店に行ってみたくなった。

（ＮＨＫ側）

番組では映像で巨大さを表現しようとした。地域の祭りが復活するということで餅投げの代わりに菓子を投げる場面を取材しに行き、岡山らしさをとらえるなど、駄菓子店と地域のつながりを描きたいという制作者のねらいが表れていたと思う。

○　５月２７日(土)のさんいんスペシャル「Ｗｈｅｒｅ　ｗｅ　ｃａｌｌ　ｈｏｍｅ　相撲が紡いでくれた絆」（総合 前7:30～7:55 島根県域・鳥取県域）を見た。“スポ根物語”の世界にストレートに迫った番組で、相撲部の指導者と部員たちが発する熱いことばに感じ入った気持ちのよい２５分間だった。鳥取城北高校相撲部はインターハ

イで連続優勝した強豪であり、引き続き注目してほしい。他方で学校の部活動は体罰など難しい問題も抱えており、そうした側面で部活動を見直す番組があってもよいと思う。

（ＮＨＫ側）

さんいんスペシャルが当初放送を予定していたのは５月２６日(金)の夜間で、大相撲夏場所の十両で鳥取県出身の落合関が活躍し盛り上がっていた時期だったため、関心が集まると私どもも期待していたが、その放送は緊急報道に伴い休止となった。翌朝の放送は反響が大きかったため、６月下旬にあらためて夜間で放送しようと計画している。

○　５月２７日(土)のコネクト「検証！Ｇ７広島サミット」（総合 後8:15～8:50 広島県域）を見た。ゲストの崇徳高校新聞部は報道機関もとらえていない写真を撮影するなど、レベルの高さに感心するとともに、Ｇ７サミットに注ぐ高校生のまなざしの純粋さに心を打たれた。Ｇ７首脳の車列の撮影に成功したときの様子も若者らしさが表れていた。番組で紹介された、原爆について発信する活動を続ける若者も、ゲストの高校生３人も、核兵器廃絶は絶対にできると信じて行動していることがすばらしい。この番組で、しっかりと未来を見つめる若者たちから大人のほうが希望を与えられたと思う。

（ＮＨＫ側）

Ｇ７広島サミットの検証は５月２２日(月)にクローズアップ現代「密着！Ｇ７サミット　ヒロシマの思いは届いたのか」を放送したことから、５月２７日(土)のコネクトでは別の切り口、未来を担う若者がどう受け止めたかを中心に伝えた。３月に放送した「＃みらいコネクト」の延長とも言える企画となり、若い人たちの新鮮な考え方や見方に触れて、われわれも勉強になった。

○　コネクト「検証！Ｇ７広島サミット」を見た。よくできた番組だったが、予定調和的で物足りなかった。Ｇ７サミットに対して辛口の評価にもっと比重を置くべきだと思った。核兵器廃絶を訴えてきた被爆者・サーロー節子さんが記者会見でサミットは「大変な失敗だった」とした発言は紹介されず、「広島ビジョン」への評価もやや甘いと思った。核兵器禁止条約に関する議論も番組の前半で取り上げてほしかった。

６月１２日(月)の昼の広島県向けのニュースで「“原爆の子の像”建立６５年で式典」のニュースを見た。式典が行われたのは前日で、結構大きなニュースだったと思う。

式典の当日ではなく翌日に放送したことに違和感があった。

６月１３日(火)に島根県内で唯一の百貨店が閉店することが報道された。県庁所在地や駅前の百貨店の閉店が相次いでいる。広域的な視点でその原因や背景を掘り下げて、島根県域だけでなく広島でも見られるようなニュースや番組を制作してほしい。

（ＮＨＫ側）

５月２２日(月)のクローズアップ現代では「広島ビジョン」に対するサーローさんの厳しい指摘を取り上げるなど、サミットの賛否を総括した。コネクトでは視点を変えて検証したが、全体的な総括から入ってもよかったかもしれない。意見は制作現場とも共有したい。

前日の出来事で重要な項目は翌朝のニュースでも放送している。重要度に応じて昼のニュースでも放送する。

島根県が百貨店のない県の３例目になるということは衝撃的であり、地域のニュースできめ細かく報道するとともに、全国に共通する課題としてＮＨＫのネットワークを通して広く伝えたい。ＮＨＫプラスも活用して全国に発信していく。百貨店の閉店について、番組の制作も準備している。

○　コネクト「検証！Ｇ７広島サミット」を見た。ゲストの高校生の視点がしっかりしていて､テレビで紹介されたことでほかの若者にも好影響を与えることを期待したい。広島だけでなく海外の核実験の被害者に視点を広げたこと、来年のＧ７サミットに向けて市民の活動は続いていくことを伝えたのはよかった。核兵器禁止条約に関して広島の市民の声と外務省の見解を対比させると、考え方の隔たりが見せられたのではないかと思った。

○　６月９日(金)のさんいんスペシャル「どうなってるの？山陰のＳＤＧｓ」を見た。山陰でのＳＤＧｓの取り組みを掘り起こした取材力に感心した。ただ、番組がパペットのシーンから始まったり、小学生と一緒に考えたりという子ども向けのような演出のスタイルが、この時間帯の視聴者に合うのかどうか、検討の余地があったのではないか。出演した小学生の意見が類型的にとどまったように聞こえたのももったいないと思った｡また､ＳＤＧｓの１７目標のそれぞれを知っている人は少ないと思うので、最初にすべて説明したらよかった。そうでなかったため、取っつきやすい子ども向けのような導入の割に、ＳＤＧｓの知識が十分にある人を対象にしたようなちぐはぐな印象を受けた。問題解決に取り組む際、ボトルネックを直さずにほかの問題に取りかかっても意味がないことが多い。ＳＤＧｓについても、どの問題を解決するとゴール

にどれだけ近づくのか正確に示さないと、目の前の“問題っぽい”事柄に取り組むことが免罪符になりかねない。その意味でもＳＤＧｓの全体像を提示すれば、よりよい番組になったと思う。

（ＮＨＫ側）

今回の演出は松江局の新キャラクター「しじみまる」を登場させたかったことと、制作統括が学校放送番組に　携わった経験を生かした。番組で小学生の意見を演出に反映させられず、型通りの答えを紹介したように見えたのは反省点だ。番組で紹介した山陰でのＳＤＧｓの取り組みは「しまねっとＮＥＷＳ６１０」などで重ねた取材を活用したもので、報道と番組制作が連携した成果だといえる。ＳＤＧｓ全体の説明や解説が必要だったという意見は、制作現場と共有して今後の参考としたい。

○　さんいんスペシャル「どうなってるの？山陰のＳＤＧｓ」を見た。小学生の視聴を想定するなら、テーマを絞ることで見やすい内容になっていたと思う。小学生が見れば親にも広がるので、番組では小学生が授業で意見を言うだけでなく行動に移すところまで描けば、その行動は周囲の人たちにも波及するのではないかと思った。

６月９日(金)の中国！ちゅーもく！ラジオ「しまねっとラジオ」を聴いた。番組では、島根県伝統のブランド力の再生についてメールやＳＮＳでメッセージを募集していて、自分もＳＮＳを見ながら聴いた。ところが番組の最後までメッセージの紹介はなく違和感を覚えた。ＳＮＳを使わない聴取者も大勢いるので、ラジオ番組はことばで詳しく分かりやすく伝えることを第１としてほしい。番組で、廃棄するシジミの殻から釉薬を作る取り組みを初めて知り、とても興味を持った。ラジオにとどまらず、いろいろな番組で紹介できると思う。また、この番組もさきほどの「さんいんスペシャル」も、取り上げた地域が出雲地方に偏っているので、県内をまんべんなく取材するとよいのではないか。

（ＮＨＫ側）

「しまねっとラジオ」で募集したメッセージの紹介がなかったのは、放送時間内にメッセージが寄せられなかったからではないかと推測する。ラジオの特性はほかのことをしながら聴けることにあるので、スマートフォンなどがない前提で分かりやすく伝えることを追求したい。放送した新しい動きは今後も取材を続けるとともに、島根県西部の話題もなるべく多く取り上げたい。

○　さんいんスペシャル「どうなってるの？山陰のＳＤＧｓ」を見た。牛肉生産の課題の一つとして、牛の餌となる穀物が開発途上国から先進国に輸出されるため、開発途上国の食料が不足することが挙げられた。一方、２月に放送したさんいんスペシャル「“白バラ”がピンチ！？鳥取牛乳クライシス」では、アメリカから輸入する飼料の高騰を問題にしており、肉牛の餌は開発途上国産で乳牛の餌はアメリカ産なのか、と疑問に思った。そばの切れ端やおからなどを餌に混ぜている畜産会社の取り組みは、ゴミの焼却による二酸化炭素の発生を抑えておいしい肉にもできるということで分かりやすく、小学生向けにはこちらに絞ったほうがよかったと思う。

（ＮＨＫ側）

「どうなってるの？山陰のＳＤＧｓ」で取り上げた畜産会社は、牛のゲップに含まれるメタンガスの削減、食品廃棄物の活用などを合わせてＳＤＧｓに配慮していることが海外から評価されている事例として紹介した。意見は制作現場と共有して、より分かりやすい伝え方を追求したい。

○　「情報維新！やまぐち」では６月５日(月)の週に「水害キャンペーン」と題して防災情報を取り上げていた。出水期に入り、防災意識を高めるよいきっかけになったと思う。あらかじめ知ることで防げる問題や、社会的な課題について、視聴者が考えるきっかけになるようなキャンペーンを今後も期待する。

６月９日(金)のＹスペ！「そして西の京は生まれた～大内氏の謎に迫る～」を見た。山口市は“西の京”と呼ばれるが、その理由はよく知らなかった。それを改めて取り上げた番組で、地域の歴史や文化をさまざまな切り口から解明して見応えがあり、大内氏が京風の町づくりを始めた理由のほか、山口への思いや野望を知ることができた。イラストなどを用いながら大内氏歴代当主の業績を分かりやすく紹介して、誰がどのように“西の京”の基礎を築いたのか理解が深まった。ただ、番組冒頭の一般の方へのインタビューでは、誰も“西の京”の由来を知らず、歴史が受け継がれていないことを残念に感じた。山口では、地域の歴史と食を結びつけた観光事業や、豊かな歴史に誇りを持ち地域づくりに参画する意識を醸成しようという構想などがあり、この番組にはこれからの山口の町づくりへのヒントも詰まっていたように感じた。今後も身近なテーマを掘り下げ、視聴者が町の成り立ちや未来のあり方を考えられるような番組を制作してほしい。また、今年度の山口局は女性アナウンサーの活躍が目立つが、この番組で長野亮アナウンサーのナレーションは重すぎない程度に男性らしい存在感があった。

（ＮＨＫ側）

情報維新！やまぐちの「水害キャンペーン」は、ＮＨＫ全体で取り組んでいる「水害から命と暮らしを守る」キャンペーンの一環だ。本部が地域放送局に配布している映像素材を活用し、地域の取材を加えて放送した。工夫したハザードマップを提供している自治体があり、記者がその活用方法を解説して視聴者に関心を持ってもらえるよう努めた。ＮＨＫは地域の安全・安心の拠点として引き続き防災情報の発信に力を入れていく。

Ｙスペ！は、若手ディレクターが遺跡を訪れたときの感動が発端となり、大内氏について調べ、その興亡の歴史のおもしろさを掘り下げた番組になった。今回の取材をきっかけに、全国放送の歴史番組などへの展開も考えていきたい。

○　Ｙスペ！「そして西の京は生まれた～大内氏の謎に迫る～」を見た。番組の進行はゆったりとしていて、長野アナウンサーのナレーションがとても分かりやすかった。山口市が“西の京”と呼ばれることは知っていたが理由を考えたことはなかった。番組を視聴して興味が湧き、その歴史を初めて自分で調べた。その上で振り返ると、番組は簡潔にまとめられていたが、深く知りたい人にとっては情報が足りなかったように思う。番組の最後は史実を断定せず“もわっと”した感じで終わったが、かえって視聴者として想像が膨らみ、その場所に行ってみたくなった。京都の鴨川に見立てたという山口の一の坂川沿いを散策やサイクリングするコースを考えて観光客に薦めることもできるのではないかと思った。

（ＮＨＫ側）

Ｙスペ！で山口と京都の地形図を並べた場面は説得力があり、山口が“西の京”を目指して整備されたことに納得できる説明だったと思う。２５分の番組では全体的に少し踏み込みが足りないところはあった。意見は制作現場に伝えたい。大内氏についてはまだ分かっていないこともあるので、さらに掘り下げて、次回はもっと全体の輪郭がつかめるような番組にまで到達させたい。長野アナウンサーはナレーションも受け答えも上手で、今回の番組ではその個性を生かすことができた。

○　６月１２日(月)の「お好みワイドひろしま」で「いま話題！“みはらプリン”」を見た。三原商工会議所の星野さんへのインタビューで、プリンを新名物にするプロジェクトのテーマは「町が一つになること」だと語り、それは菓子店と農家、豆腐店と飲

食店などの事例を通して、町に新たなつながりが生まれていることから見て取れた。このリポートの冒頭で若者が「三原は“新幹線が通っているだけ”と言われるので、プリンが有名だと知ってもらいたい」と語ったインタビューが構成の中で重要な役割を果たしていて、地元の期待がプロジェクトを後押ししていることが感じられた。ローカル同士がつながってネットワークを形成することで地域が活性化していくと考えていたが、この取り組みはそれに当てはまると思い興味深かった。「コネクト」などで掘り下げてほしい。

（ＮＨＫ側）

　このリポートは２年目の若手ディレクターが企画し、取材から編集までおこなった。三原市の認知度に関する市民の思いや、プリンを通して食材の生産者や加工者、みんなが協力していることに興味を持ち、描こうとしたディレクターの意図が伝わったと思えてありがたい。

○　５月２２日(月)の映像の世紀バタフライエフェクト「独ソ戦　地獄の戦場」に不正確な部分があり、再放送に際して修正し公式サイトで謝罪したという報道があった。すぐに修正、謝罪したのはよかったが、昨年４月にもニュースでウクライナ語を翻訳した字幕が不的確だった件があり、またかとがっかりした。公共放送の信頼低下を招くことは大変残念だ。海外の事件や出来事は言語の面から視聴者が誤りを見つけるのは難しいため、ＮＨＫの中にファクトチェックや校正等を専門に行う部門を立ち上げるか、あるなら強化して専門家の確認を受けなければならないのではないか。

　関連して４月１７日(月)の映像の世紀バタフライエフェクト「ベルリン　戦後ゼロ年」で、第二次世界大戦後のドイツでは女性が占領軍の将兵による性暴力に遭ったため母親がドイツ人で父親が外国人の子どもが増え、その子どもたちを社会が受け入れようとした模索が移民問題に寛容な国を形づくったと述べていた。機会があってドイツの議員だった女性にこの話が本当か聞いたところ、そんなことはないと言われた。定説でない事柄を事実のように放送するのは本当に危険だ。番組の内容についてはしっかりとチェックをしてほしい。

（ＮＨＫ側）

　映像の世紀バタフライエフェクトを含め、番組は必ず外部の専門家の取材をもとに制作を行っている。ただ、専門領域が非常に細分化しており、できる限りおきないようにすべきではあるが、専門家に確認してもらう過程でミスが生じることは、あり得る。誤りを少しでも減らすために、今後もしっかりとチェックをしていく。

○　６月４日(日)の小さな旅「恵みの池　笑顔あふれて　～鳥取県　東郷池～」を見た。シジミといえば宍道湖か湖山池が有名だが東郷池で４センチもの大きなシジミが採れることや温泉が湧いていることなど、初めて知ることが多かった。旅人の中川緑アナウンサーが「何をされているんですか」と声をかけた漁師が「東郷池でシジミを採ってきた」と答えた場面では、シジミを床に広げて行っていた作業は分からずじまいで、何の工程か知りたかった。「じょれん」という道具で漁を行う場面では、道具の名前がテロップで表示されたら分かりやすかったと思う。池の恵みを次世代につないでいく営みが描かれ、温かい気持ちになった。

（ＮＨＫ側）

「小さな旅」で訪れた東郷池のシジミが意外に知られていないことは委員の感想からも分かった。放送後に全国から問い合わせが来たと聞いている。東郷池の恵みに支えられた豊かな暮らしを全国に紹介できてよかった。番組の冒頭で漁師が行っていた作業は、シジミの選別かと思うが、確かに説明がなかったことについては同感だ。「小さな旅」は叙情性豊かなスタイルが確立しているため、説明はあえて省いたのかもしれない。番組の味わいをそがずに情報性にも配慮するように工夫できないか、意見を本部の番組担当者に伝えたい。

○　小さな旅「恵みの池　笑顔あふれて～鳥取県　東郷池～」を見た。番組の導入で場所の説明をする湖のふかんの映像で始まり、海に隣接する汽水湖という独特のロケーションがよく伝わった。地元の３人を取り上げて、１人目のシジミ漁師が経営する居酒屋には笑顔があふれ、にぎやかで臨場感があった。漁師である店主が食事の締めに出すシジミのみそ汁を無音で数秒間、不自然なほどのアップで見せたシーンは、写し取ろうとする撮影者の熱量を感じた。２人目の男性については、大阪から移住してきた経緯など、中川アナウンサーがもう少し踏み込んで人物像を引き出せたらよかった。

（ＮＨＫ側）

「小さな旅」冒頭の空中からの撮影は、汽水湖であることの説明に効果的だった。番組に登場した２番目の人については、東郷池に湧く温泉の恵みを満喫する暮らしを紹介するのが主で、人物の内面まで掘り下げなかったことは否めない。意見は制作現場に伝える。撮影したのは鳥取局のカメラマンだが、被写体に迫る動的なカメラワークが「小さな旅」のスタイルに合わないと本部での編集の過程

で議論になったと聞いた。その中でシジミのみそ汁をアップにしたカットが残ったのはよかった。

ＮＨＫ広島放送局
番組審議会事務局

２０２３年５月ＮＨＫ中国地方放送番組審議会

５月のＮＨＫ中国地方放送番組審議会は、２５日（木）、広島放送局において１１人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、放送番組一般について活発に意見交換を行ったあと、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、６月の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委 員 長	安彦恵里香	（Ｓｏｃｉａｌ　Ｂｏｏｋ　Ｃａｆｅハチドリ舎　店主）
副委員長	河本　清順	（ＮＰＯ法人　シネマ尾道　代表理事）
委　　員	石橋千賀良	（七草農園　代表）
	岩崎　　誠	（中国新聞社　論説主幹）
	原田　尚美	（やまぐちシードル　代表）
	平野真里香	（有限会社平野屋　営業本部長）
	福安　佳子	（鳥取大学　非常勤講師）
	細野　賢治	（広島大学　大学院統合生命科学研究科　教授）
	松浦奈津子	（株式会社Ａｒｃｈｉｓ　代表取締役社長）
	まつもとゆきひろ	（一般財団法人　Ｒｕｂｙアソシエーション　理事長）
	薬師寺明子	（美作大学　生活科学部社会福祉学科　准教授）

（主な発言）

＜放送番組一般について＞

○　４月２１日(金)ラジオ第１の中国！ちゅーもく！ラジオ「しまねっとラジオ」を聴いた。松江局の新放送会館で行われた、小泉八雲と妻・セツをテーマにした小説「ヘルンとセツ」の朗読イベントの模様が放送された。プロであるアナウンサーの朗読は聴いてとても心地よく、朗読の合間に人物像や状況の説明があったので、小泉八雲についてよく知らなくても作品の世界観に入りやすいと思った。小説に書かれた出雲弁が朗読により音として表現されたことが新鮮だった。ゆくゆくはドラマ化やアニメ化を希望する。地域のことばの文化、その希少価値が届けられると思う。番組の最後で松江局開局９０周年のテーマソング、Ｏｍｏｉｎｏｔａｋｅの「オーダーメイド」が流れたのもよかった。

（ＮＨＫ側）

今回の朗読イベントには小説の著者・田渕久美子さんを招き、アナウンサーたちは著者を前に朗読したことで大変緊張したそうだが、よい経験になった。朗読という形で小説のことばを実際に聞くと作品を間近に感じて、地域を舞台にした物語を音声化や映像化して伝えることの価値を実感した。島根ではこの小説のドラマ化を望む声がとても強く、できることを頑張っていきたい。

○　４月２８日(金)の@ｏｋａｙａｍａ「あの感動をもう一度！カムカムエヴリバディ再会コンサート@岡山」（総合 後 7:30～8:42　岡山県域）を楽しんで見た。演奏中にドラマのシーンが静止画で短く映し出されたが、もう少し作品の内容をまとめて見られる総集編のようなパートがあれば、連続テレビ小説「カムカムエヴリバディ」を見なかった人もドラマの世界に入り込めて番組をより楽しめたと思う。

（ＮＨＫ側）

コンサートは２時間半ほどの長さで、演奏の合間で総集編的なパートを３か所入れていた。それを見て作品世界を思い出しながら音楽を聴いてもらうという進行だった。番組の長さはコンサートの半分ほどのため、演奏中心の構成にした。ドラマをご覧にならなかった方も楽しめるようにバランスを考えたとは思うが、ご意見は制作現場と共有したい。

○　@ｏｋａｙａｍａ「あの感動をもう一度！カムカムエヴリバディ再開コンサート@岡山」を見た。ホールで司会をした永松隆太朗アナウンサーの見栄えがよく、勝手ながらニュースを読むより向いていると思った。連続テレビ小説「カムカムエヴリバディ」は３世代 100 年の物語で、いろいろな時代の音楽を聴ける機会となった。コンサート化するのにもってこいのドラマだったことに改めて気付き、企画を評価したい。ＮＨＫプラスの見逃し配信では「ご当地プラス」に加えて「＃ミュージック」のプレイリストにも入っており、全国の人にも見てもらえたのではないかと思う。

（ＮＨＫ側）

「カムカムエヴリバディ」は、コンサートにも出演した作曲家・金子隆博さんのオリジナル曲やジャズ・ナンバーなど、多様で充実した音楽に彩られたドラマだった。放送が終わって１年後にコンサートを開催できたのも、番組に力があり、視聴者に気に入っていただけたからだと思う。

○　４月２８日(金)のさんいんスペシャル「木次線　四季の物語」を見た。沿線の人々の生活を支える木次線を、移り変わる季節の風景とともに描いたのがよかった。地域の状況と、住民が木次線をとても愛していることが伝わった。一方、島根県を舞台とした番組では過疎化の現実が避けて通れない。三井野原駅近くのスキー場も営業の規模を縮小したことが伝えられ、長年ゲレンデを管理してきた方が「頑張らないといけない」と語ったことばは過疎地の人たちに共通する思いを代弁したようだった。日本の人口が減りつつある中で、都市部以外の多くの地域が直面する未来を暗示しているような気がした。強く問題提起しなくても、過疎化の現実が端々に現れているように見えた。

（ＮＨＫ側）

「木次線　四季の物語」はニュースの年間テーマとして「しまねっとＮＥＷＳ６１０」でシリーズ化し、１年間を通して取材し、かつ四季の表情を高精細８Ｋ映像でも記録したものを番組にまとめたものだ。四季折々の映像として満足感の高いものを目指したのに加え、地域の方々が木次線を本当に愛している様子が描かれて、温かい内容に仕上がったと思う。過疎の問題についてはほかに企画を立てて取材をしていきたい。全国の午後６時台の地域ニュース番組がＮＨＫプラスの見逃し番組配信で見られるようになったので、過疎対策をはじめ、ほかの地域の情報も得やすくなったと思う。私どもも全国への発信をより意識しながら取材、制作をしていきたい。

○　５月１９日(金)のコネクト「開幕！Ｇ７サミット“ヒロシマ”の思いは届くのか」（総合 後 7:57～8:42　中国ﾌﾞﾛｯｸ）を見た。番組の冒頭でキャスターとゲスト合わせて４名の女性が並んでいたのは、ほとんど男性ばかりのＧ７とのコントラストが効いていた。原爆資料館館長の記者会見の内容はお粗末で不誠実だと思ったが、逆にそれが伝わったことはよかった。ゲストの小倉桂子さんが、資料館で首脳たちに被爆証言をした当日の夜に話してくださったことで､その場の雰囲気や感触が伝わったと思う。小倉さんが首脳たちとの会話の内容を話すことを止められていることについて、ゲストの広島平和研究所所長がおかしいと指摘したことには同感で、この議論をもっと深めてもよかった。リモートで参加した原爆資料館の前館長が話した、キューバのカストロ元議長が資料館を訪問したいきさつももう少し長く聞きたかった。

５月２２日(月)のクローズアップ現代「密着！Ｇ７サミット　ヒロシマの思いは届いたのか」も見た。コネクトにも出演したＮＧＯ代表・渡部朋子さんの活動を取り上げたこと、サミットで発表された「広島ビジョン」に対する広島の厳しい視点が共有

されていたことはよかった。サミットの出来事を追うだけでは成功したという印象で終わりがちなところに、開催の意味を問い、今後どうあるべきかを示していた。

（ＮＨＫ側）

コネクトはＧ７サミット初日の夜の生放送で、当日の事実を中心に多面的に伝えようとした。限られた時間の中で至らなかった点は反省して今後に生かしたい。

クローズアップ現代は広島のスタッフが本部に赴き制作に参加した。東京と広島の視点を併せ持って全国に伝えることができた。

○　コネクト「開幕！Ｇ７サミット“ヒロシマ”の思いは届くのか」は、まず出演者がよかった。小倉桂子さんの話から高揚感が伝わり、とてもよいコメントをされていた。資料館で首脳に被爆証言することを小倉さん自身、数日前に知らされたと語り、市民にはいろいろな情報が閉ざされたサミットだと感じた。原爆資料館前館長が７年前のアメリカ・オバマ元大統領の資料館訪問がわずか１０分だったことを苦い経験として振り返り、今回と対比したのもよかった。Ｇ７首脳らの資料館の中での様子が非公開とされたことに小野文惠アナウンサーが「壁を感じた」と語ったことが心に刺さった。

クローズアップ現代「密着！Ｇ７サミット　ヒロシマの思いは届いたのか」では、「広島ビジョン」に対するサーロー節子さん、渡部朋子さんの怒りと落胆が印象に残った。活動をあきらめず、それを若い人が引き継いでいくことに希望の光を見いだしたいと思った。

（ＮＨＫ側）

小倉桂子さんには昨年度に放送したコネクトで密着取材させていただき関係を築いていたことから、今回のコネクトにも出演していただけた。コネクト、クローズアップ現代ともに核廃絶を訴える多様な声を伝えることを意識して制作した。

○　コネクト「開幕！Ｇ７サミット“ヒロシマ”の思いは届くのか」を見た。小倉桂子さんが生放送で話した内容すべてにニュース性があり、延々話してもらってもよかった。原爆資料館前館長が話したキューバのカストロ元議長訪問のくだりでも、キャスターが途中で打ち切った感じだった。広島平和研究所所長の指摘も的確でもっと聞きたかった。番組構成上の事情は理解できるが、作り込みのＶＴＲよりもゲストの生の話を優先してほしかった。

クローズアップ現代「密着！Ｇ７サミット　ヒロシマの思いは届いたのか」は出色の出来だと思った。ゲストの東京大学名誉教授・藤原帰一さんが被爆地・広島に寄り

添った発言をされたのがうれしかった。

一方、Ｇ７サミット関連で特設された全国放送のニュースでは、広島からの中継映像に対して東京のスタジオで解説したことに違和感があった。東京の記者であっても広島に来て、広島局あるいは臨時のスタジオなどから、その場の空気を感じて伝えるとよかったと思う。

（ＮＨＫ側）

当日の出来事を夜に生放送する番組の制作者にとって、中身がそろわず番組に“穴が空く”ことがないようにどれだけ事前に準備すればよいか、放送本番では準備した素材を使うのか飛ばすのか、判断を適切に行うことは永遠の課題だ。コネクトでは、限られた準備期間で行った生放送で結果的に時間配分が適切だったのか、課題を検証して今後に生かしたい。

○　コネクト「開幕！Ｇ７サミット“ヒロシマ”の思いは届くのか」を見た。やはりＧ７首脳と対面した小倉桂子さんの話が印象深かった。首脳たちが小倉さんの話を聞く姿勢やしぐさなどをつぶさに描写する表現力の高さが際立ち、その場にいるような感覚を覚えた。広島平和研究所所長が、首脳たちの資料館訪問がサミットの成果に直接結びつくのは難しいとはっきり指摘し、それでも今後のサミットで核兵器の議論を継続する契機になると期待を込めて発言したことは重要だと思った。サミットの評価として成功か失敗か、二元論的な反応や議論が多い中で広島での経験が首脳たちの人間としてのあり方にどう訴えかけたのか、世界情勢を長期的にどのような展開に持っていけるのかという視点で展望したのは「コネクト」以外にほとんど見られなかったのではないか。この番組は視聴者に重要な視座を与えたと思う。

（ＮＨＫ側）

番組での小倉さんの発言のとおり、Ｇ７首脳が一堂に会して被爆証言を聞いたことは重要だったと思う。各国首脳の発言の中にも資料館訪問について言及したものがあり、人として何か感じられるものがあったと期待する。

○　コネクト「開幕！Ｇ７サミット“ヒロシマ”の思いは届くのか」を見た。小倉桂子さんが原爆資料館での首脳たちとの会話の内容を明かせないという、情報の閉鎖性がとても気になった。資料館の出入り口の映像も遠くからで小さく、ニュースでも放送された場面だったので、日本が閉鎖的であるという印象を世界に与えたのではないかと思った。資料館での首脳の様子が非公開とされていることについて、政府からどの

ような説明があったのか知りたい。今回のサミットで、Ｇ７に政策提言する「Ｃ７」に核兵器廃絶を議論する基盤が整ったことはすばらしいと思った。

（ＮＨＫ側）

原爆資料館の出入り口の映像については、セキュリティの関係でカメラの設置場所が制約されていたことによる。資料館での首脳の様子が非公開となったのは核保有国の意向が反映されたとみられる。メディアとして公開を訴え、開示できないならその理由を明確にして視聴者に示せなかったことは反省点だ。

○　「情報維新！やまぐち」は今年度からキャスターが週ごとに交代し、コーナーも多彩で毎日新鮮に感じながら楽しく見ている。Ｇ７サミット開催に伴う山口県への影響が取り上げられ、生活情報としてとても役立った。隣県で行われたＧ７サミットを山口の視点で深く掘り下げる報道があるとよかった。サミット関連の「コネクト」を何度も見たため、開催地・広島と山口との温度差が少し感じられた。

（ＮＨＫ側）

Ｇ７サミットには山口局からも記者などが取材応援に出て、残った限られた要員で「情報維新！やまぐち」の取材・制作を行った事情もあった。山口には米軍基地もあることから、サミットを山口に引き寄せて伝える視点がもっとあればよかったという意見には同感であり、取材・制作現場とも共有したい。

○　５月２４日(水)の「情報維新！やまぐち」で放送したイチ押し！支局発「阿武町で広がるデマンド交通」は、とてもよいリポートだった。高齢化が進んだ山口県の山間部では、買い物の便が悪いために高齢者の低栄養が問題になっているという話を聞いていて、阿武町の取り組みに感心した。放送を見た際に運営主体がはっきりしなかったので、自分で調べて町にも問い合わせた。誰がどのように始めたのか、もう少し詳しく紹介すれば他の地域の人にもより参考になったと思う。

（ＮＨＫ側）

イチ押し！支局発「阿武町で広がるデマンド交通」は、萩報道室の記者が取材した。山口県の公共交通を取り巻く環境は厳しく、車社会の中で高齢化に伴って現れた問題を解決しようとする地域の取り組みをリポートした。利用者の声だけでなく、運営者の情報をも

う少し盛り込めば、より役立つ内容になったかもしれない。意見は制作現場と共有する。

○　４月２８日(金)のドキュメント７２時間「山口・防府天満宮　人形にさよならを」を見た。人形を納めに来た方々に経緯やそれぞれの思いを丁寧に聞き取り、みなすっきりとした表情で話していたのが印象的だった。地元で長く愛されている防府天満宮が参拝者の要望を受けて始めた“人形感謝祭”を通して、人の優しさや伝統を大切にする風土といった山口のよいところが伝わったと思う。

（ＮＨＫ側）

ドキュメント７２時間は本部制作の番組だが、ディレクターは昨年の夏まで山口局に在籍していた者だ。山口で育った制作者が転勤後にも全国に山口を発信するというＮＨＫならではと言えるよい仕事をしたと思う。

○　５月１９日(金)のアナザーストーリーズ　運命の分岐点「オバマ大統領　広島の地へ～歴史的訪問の舞台裏～」を見た。しっかりとした取材により歴史的訪問の舞台裏が非常によく分かった。また、５月２２日(月)の映像の世紀バタフライエフェクト「独ソ戦　地獄の戦場」を見た。独ソ戦におけるソ連の死者数 2700 万人は裏付けのある数字なのだろう。国が戦争に向かうとき、情報が統制されて政治の上層部と市民が分断される様を見せつけられた。５月１９日(金)から４日間の番組編成からは、ＮＨＫが世界の今の状況に抱く危機感が表れていると感じた。

（ＮＨＫ側）

Ｇ７サミットに合わせて、国際政治の舞台裏や過去の戦争の惨禍から現状と課題を想起していただけるような番組を編成した。ご覧いただけてうれしく思う。

○　５月２２日(月)から「もぎたて！」がＮＨＫプラスで見逃し配信されるようになった。平日午後６時台にはふだん在宅しておらず放送はほとんど見られないが、配信期間が１週間あるので放送翌日に見ることもできる。地域の情報がよくわかり、サービスが始まってよかった。

○　ＮＨＫプラスの見逃し番組配信で平日午後６時台の地元のニュースや、かつて住んでいた地域のニュースが見られるようになり、本当にサービスが向上したと思う。

○　先日引っ越したので受信料の住所変更手続きを行おうと思い、テレビのお知らせに注目したが、最近放送されたのは新規契約のお知らせばかりだった。お知らせの画面に新規契約と住所変更、２つのＱＲコードを並べて表示してはどうか。

（ＮＨＫ側）

受信料のお知らせは、新規契約のお願いと住所変更のお願いの２種類を、時期を勘案しながら放送している。いただいた意見は編成の参考としたい。

ＮＨＫ広島放送局
番組審議会事務局

２０２３年４月ＮＨＫ中国地方放送番組審議会

４月のＮＨＫ中国地方放送番組審議会は、２０日（木）、広島放送局において１２人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、放送番組一般について活発に意見交換を行ったあと、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、５月の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委 員 長	安彦恵里香	（Ｓｏｃｉａｌ　Ｂｏｏｋ　Ｃａｆｅハチドリ舎　店主）
副委員長	河本　清順	（ＮＰＯ法人　シネマ尾道　代表理事）
委　　員	伊澤　大介	（有限会社森の国　代表取締役社長）
	石橋千賀良	（七草農園　代表）
	岩崎　　誠	（中国新聞社　論説主幹）
	笠原　　浩	（広島市立大学　芸術学部デザイン工芸学科　教授）
	原田　尚美	（やまぐちシードル　代表）
	平野真里香	（有限会社平野屋　営業本部長）
	福安　佳子	（鳥取大学　非常勤講師）
	松浦奈津子	（株式会社Ａｒｃｈｉｓ　代表取締役社長）
	まつもとゆきひろ	（一般財団法人　Ｒｕｂｙアソシエーション　理事長）
	薬師寺明子	（美作大学　生活科学部社会福祉学科　准教授）

（主な発言）

＜放送番組一般について＞

○　先月の審議会で３月１０日(金)のコネクト「中国地方も危ない！？南海トラフ巨大地震」について意見を述べた。追加の質問だが、この番組ではなぜ原発のことに触れなかったのか。ＮＨＫスペシャルでも触れられていなかった。南海トラフ巨大地震の想定震源域には愛媛県の伊方原発が含まれ、地域住民は不安に思っているだろう。津波被害や物流の停滞以上に大きな問題だと思うので、ぜひ南海トラフ巨大地震と原発をテーマに特集してほしい。

（ＮＨＫ側）

「中国地方も危ない！？南海トラフ巨大地震」は原発に触れるのを避けたのではなく、中国地方では南海トラフ巨大地震への危機感が薄い現状をふまえ、まずは“正しく恐れて”もらうことを番組の

趣旨として、限られた放送時間内に津波被害と物流の問題を取り上げた。南海トラフ巨大地震と原発の問題は考えるべきテーマだと認識しているので検討していきたい。

○　３月１７日(金)のコネクト「みんなのカープ県民大会議　開幕直前ＳＰ！」（総合後 7:30～8:42、10:00～11:15　広島県域）を楽しんで見た。ただ、これほど長い時間を使って伝える必要があったかは疑問だ。広島県のプロ野球ファンは必ずしもカープ一色でないので、カープにエールを送りつつ、ライバルチームの戦力分析も交えるなどセ・リーグ全体を視野に入れた構成にしたらよかった。

（ＮＨＫ側）

昨年同時期の「みんなのカープ県民大会議　開幕直前ＳＰ」は今回より短時間の放送で、もっと見たいという声が寄せられたため今回は放送時間を延長した。長時間の放送でもよく見られたという結果が出ており、カープファンの多さがその要因だったのは間違いないと思う。広島県でも他球団のファンが一定数いることや放送時間のバランスについて、さまざまな意見を参考にして今後に生かしたい。

○　３月１７日(金)の@ｏｋａｙａｍａ「小さな旅　おかえりの島　～岡山県　六島～」を見た。導入部分で過疎地域の後ろ向きの話を想像したが、島で１人の小学生をみんなで見守っていたり、若い移住者がビール作りをしていたりと、活気もあることが分かって何か安心して見ることができた。番組で一番魅力的だったのはヒジキを採っていたおばあちゃんたちだった。過疎地で生活はしにくいはずだが、和気あいあいと働いていたおばあちゃんの家に遊びに行ったような気分になった。「小さな旅」という番組名のとおり、自分の代わりに小さな旅をしてくれたような感じがした。テーマ曲もよかった。

（ＮＨＫ側）

この番組の元となった３月１２日(日)の小さな旅「おかえりの島～岡山県　六島～」は岡山局の若手ディレクターが、六島に魅力を感じて提案、制作した。番組では人のつながりをたどっていくとひと回りして元に戻り、エピソードの断片を見るうちに六島のよさが伝わるような構成になっていたと思う。故郷の島で仲間とヒジキを採る女性の姿から、人の幸せの在りかを描くこともできた。岡山に

は島が多く、それぞれに特色がある。全国放送番組も活用して「@ｏｋａｙａｍａ」でその魅力を伝えていきたい。

○　３月１７日(金)のさんいんスペシャル「歌があるから生きられる！～チーム・オセイの物語～」を見た。ユニークでバイタリティーのあるメンバーたちの様子から元気をもらった。ナレーションを「お晴（せい）」さんが担当したのもよく、柔らかな声質でユーモアに満ちていて心地よかった。地域の人材を発掘する役目を果たした番組だと思う。

（ＮＨＫ側）

　さんいんスペシャル「歌があるから生きられる！」の「お晴」さんは、昨年の「いろ★ドリ」で取り上げたことがあり、おもしろい人たちだったので取材を継続して「さんいんスペシャル」に発展させた。委員の意見から、人生経験を経てもなお夢を追い続ける人たちの姿を描き視聴者に元気を与えたいという番組のねらいが伝わったと思えてありがたい。

○　３月１７日(金)のＹスペ！「お便りさんぽスペシャル未来へつなぐ伝統と文化」を見た。取材した４か所それぞれの取り組みの背景が紹介されて「伝統と文化」が感じられた。特に防府市でたこつぼ作りを復活させた話題については、地域の産業の歴史も知ることができた。２人のリポーターの個性が発揮されていて、“体当たり取材”が楽しい田邊和佳リポーターが生き生きとしていた。番組は「情報維新！やまぐち」で放送した企画で構成されていたが、冒頭で取材した４か所を地図で紹介するなど、情報が付加されていたらよかった。

（ＮＨＫ側）

　「情報維新！やまぐち」の「お便りさんぽ」は１１年目に入り、これからも地域の魅力を掘り起こしていく。総集編の「お便りさんぽスペシャル」を放送する際は、番組全体を紹介する地図を付加するなどの工夫を制作現場と考えたい。

○　３月２４日(金)のコネクト「ドキュメント“男性育休”」を見た。育休を取得した男性ディレクターがみずから撮影するスタイルは興味深く、男性が育休を取ることの大切さがしっかり伝わった。しかし結末は、男性は育児に参加するが、やはり子育ては女性が担うものだという印象が拭えなかった。子育ては夫婦２人でしっかり行うべきだと明確に伝えたらよかった。

（ＮＨＫ側）

「ドキュメント“男性育休”」について、男性は育児を少し手伝えばよいという考え方であるように見えたという意見は制作現場と共有したい。

○　３月２４日(金)のさんいんスペシャル「砂上のコンサート～朝夏まなと　古代エジプトの世界へ～」は歌のよさが十分に伝わらず期待外れに感じた。朝夏さんが忙しくて練習時間が十分取れなかったのか、あるいは体調が悪かったのかと心配になった。

（ＮＨＫ側）

さんいんスペシャル「砂上のコンサート」で、朝夏まなとさんの準備期間などについて問題があったとは聞いていない。ただ、コンサート会場が美術館だったため、音響設備が万全だったとは言えない。今後も同様のコンサートを継続したいと考えているので、次回はより完成度を高めていきたい。

○　３月２８日(火)の「いろ★ドリ」のとっとりの技「林業家　大谷訓大さん」はあまり引き込まれなかった。伐採する木の選定や切り倒す方向など高度なテクニックがあるはずで、“技”の見せ方に工夫の余地があったと思う。遠目に大谷さんのお子さんらしい子どもたちが帰宅する場面であっけなく終わったが、林業を次世代につなぐ熱い思いが聞けたらよかった。

（ＮＨＫ側）

とっとりの技「林業家　大谷訓大さん」は、林業に打ち込む主人公の理念を紹介することが先行したきらいがあった。指摘のとおり、技のすごさをきちんと描くまでには至らなかったかもしれない。今後の検討材料としたい。

○　４月６日(木)の「いろ★ドリ」で精鋭「“ミニ書店”が話題　加藤翼さん」を見た。多くの現場取材を通して、夢に向かって進む若者の様子がみずみずしく描かれていた。ＶＴＲからスタジオに戻ったあとも話題が続き、もしスタジオにミニ書店を開くならと仮定して加藤さんが選んだ本が紹介されたのもよい締めくくり方だった。コーナーの出だしで「電子書籍などのサブスクが広がる中」と軽く触れられたが、書店経営の苦境についてもう少し掘り下げて解説してほしかった。

（ＮＨＫ側）

精鋭「“ミニ書店”が話題　加藤翼さん」では多くの現場を取材したことで、加藤さんのことばだけでなく映像からも彼の考えやこだわりがうかがえる作りになっていたと思う。加藤さんに影響を与えたビジネス書の著者も含めて、継続的に見つめていきたい。また、「精鋭」で取り上げる人を取り巻く社会や業界の状況を伝えることも意識したい。

○　新年度の「情報維新！やまぐち」は、週によって女性キャスター２人で進行されるのが新鮮で、女性活躍を推進している印象を受ける。新コーナーの「クイズ！やまぐちクエスト」ではＮＨＫが蓄積した資料映像が活用されていた。こうした資料映像はほかのさまざまな企画に展開し、資源として地域に役立ててもらいたい。また、「統一地方選　ひとくちメモ」は勉強になった。よく分からないから選挙に行かないという人も多い中で、投票率アップにつながる取り組みだと思った。

（ＮＨＫ側）

「クイズ！やまぐちクエスト」は双方向企画で、４月６日(木)の放送は 1000 人ほどの視聴者に参加していただいた。ホームページに掲載しており、学校教材として活用してもらうことで地域に貢献したい。

「統一地方選　ひとくちメモ」は地域放送で活用できるように本部が制作したミニシリーズだ。この“豆知識”と地域放送局が取材した選挙戦のリポートを組み合わせて選挙報道を充実させることを意図した。民主主義の根幹である選挙を支える役割を果たせたと思う。

○　「情報維新！やまぐち」のキャスターに４月から条谷有香アナウンサーが加わり、大西結依キャスターと合わせて女性中心となった。とても明るくて印象がよい。

４月６日(木)に「情報維新！やまぐち」の新コーナー、クイズ！やまぐちクエスト「山口県ってどんな県？」を見た。ＮＨＫの資料映像から小学生向けの学習教材を作ってクイズ仕立てにした内容で、山口県の地理や産業、交通が整理されて、大人が見ても山口県を客観的にとらえ直す機会になった。

４月１０日(月)と１２日(水)の「情報維新！やまぐち」では、新コーナー「ふるさとの空から」で、それぞれ錦帯橋の桜と山口市の一の坂川の桜がドローン撮影で紹介された。桜をめぐる人の営みも映し出されて、改めて山口県の自然と歴史、文化の豊かさ、人のすばらしさを感じた。ドローンで撮影した映像が美しく、山口県内の１９

市町すべてを訪れるということで今後が楽しみだ。できれば合併前の市町村単位で取り上げてほしい。

また、「情報維新！やまぐち」では「統一地方選　ひとくちメモ」をたびたび放送して、わかりやすい解説に納得したり、無投票当選が結構多いと思ったりして、視聴者が選挙に興味を持つようにＮＨＫとして役割を果たしていたと思う。

（ＮＨＫ側）

「情報維新！やまぐち」は新年度より条谷アナウンサーがキャスターに加わり、平﨑貴昭アナウンサーと週ごとに交代している。それによってキャスターが外に取材に出る機会を増やしたいと考えている。

「クイズ！やまぐちクエスト」は、岡山局の「考える岡山」を参考にした。「ふるさとの空から」は技術担当の職員が提案して制作している。山口県の１９市町すべてを訪れるつもりであり、視聴者に募集もしている。取材を通して自治体との関係を強化し、災害時の映像取材にドローンを使用することなども視野に入れている。合併によって広くなった自治体もあることから、ひととおり回ったら２周目を続けることなども考えたい。

○　４月７日(金)のコネクト「“かき打つ島”は いま～縮小・ニッポンの最前線で何が～」を見た。２月３日(金)にコネクト「広島のカキがピンチ！？」を放送して、またカキの話題かと思ったが、見始めて技能実習生が論点の中心だとわかった。特定技能制度を導入しても人手不足の根本的な解決は難しいという結論で終わったのはむしろよかった。安易に結論づけず問題を継続的に見つめていく姿勢を評価したい。

（ＮＨＫ側）

「“かき打つ島”は　いま」は、タイトルから技能実習生や労働力確保の問題を取り上げると連想できなかったかもしれない。内容に合ったタイトルを付けるように工夫していきたい。

○　コネクト「“かき打つ島”は　いま～縮小・ニッポンの最前線で何が～」は非常に見応えがあった。痛ましい事件から１０年の節目に、技能実習生や生産現場の現状を深く取材したすぐれたドキュメンタリーだった。ただ、コネクトの放送枠に収まりきらないテーマであり、スタジオでのキャスターとゲストのタレントとのトークを省いて、取材した映像や関係者の声をもっと紹介してほしかった。「クローズアップ現代」や「ＮＨＫスペシャル」にも展開できると思う。

（ＮＨＫ側）

「“かき打つ島”は　いま」は、まず「お好みワイドひろしま」でリポートして「コネクト」に発展させた。日本経済の縮小や若い働き手の減少という根深い問題がこの地に現れていることを描いたもので、今後も見つめていく必要のあるテーマだ。全国放送への展開も考えていきたい。

○　４月１４日(金)のコネクト「どう支える？１０代の性的マイノリティー」を見た。死を考えるほどの当事者の苦しみや親の葛藤が丁寧に描かれ、身近な人の理解が本当に大事なことが分かった。当事者の周りの人たちはどう受け止めればよいか考えるきっかけになったと思う。広島で性的マイノリティーを支援するグループがあることを紹介したのはよかった。ゲストの広島修道大学・河口和也教授はジェンダーや性的マイノリティーについての研究や啓発活動で知られているが、自身の１０代の経験を語られたことで活動の原点を知ることができた。

（ＮＨＫ側）

性的マイノリティーに対する社会の理解はずいぶん進んだが、河口教授の調査では、当事者が他人ならかまわないが家族なのは受け入れられないという意識が強いことがわかっており、「どう支える？１０代の性的マイノリティー」を企画する出発点となった。担当ディレクターが主人公の中学生やその母親と信頼関係を築いて取材させてもらった。

○　コネクト「どう支える？　１０代の性的マイノリティー」をとても興味深く見た。中学生の主人公に「性同一性障害になってしまった」と、病気のように思わせてしまった世の中はよくないと思った。支援グループと出会った主人公が前向きに変わった様子がよく捉えられていた。母親が終始広島弁で語っていたことで、その気持ちがストレートに心に入ってきた。番組の末尾で河口教授が「われわれの頑張りにかかっている」と語ったことばは視聴者に向けられたように感じて、受け止めたいと思った。性的マイノリティーの当事者だけでなく、周りの人たちが受け入れる様子をドキュメントする番組も見てみたい。一方、主人公の顔の一部や学校の外観など、映像の一部をぼかしていたことが気になった。映像の扱いに何か規定があるのか。

（ＮＨＫ側）

ＮＨＫでは、匿名での取材やぼかしなど映像の加工を行う際はチェックシートを使用して必要性や留意すべき点を一つ一つ精査して

いる。主人公の顔の一部にぼかしを入れたのは本人と母親の要望による。また、河口教授が研修会を行った学校の外観をぼかしたのも学校の要望による。いずれも人権や安全に配慮して映像を加工した。

○　４月１４日(金)の@ｏｋａｙａｍａ「優勝　それからのこと～岡山学芸館高校男子サッカー部～」を見た。事前の番組宣伝からはおもしろさがあまり伝わってこなかったのが惜しかった。番組で登場した３人の元部員の話に加えて、サッカーを始めたきっかけや家族の話もあり、本人の努力と子どもを思う親の気持ちが伝わった。元部員たちのことば、特に試合に出られなかった子の悔しがる様子が印象に残った。特別な経験をした１８歳の若者たちが、これが終わりではなく始まりとしてどこへ進むのかを描く切り口がよかった。卒業した３７人の元部員のうち、どのくらいの人がサッカーを続ける道に進んだのか知りたかった。

（ＮＨＫ側）

「優勝　それからのこと」は、元部員たちが本音のことばで語ってくれた。サッカー強豪校で厳しいレギュラー争いをしてきた中でそれぞれの思いがあり、そうした心の動きを捉えることができたと思う。本当は１月に全国高校サッカー選手権で優勝した直後に、決勝戦ドキュメントなどの特集番組を制作したかったが、態勢が整わず見送った。しかし、卒業する彼らにとって優勝はゴールではなく、これからが人生の始まりであることをＮＨＫらしく取材を重ねて「@ｏｋａｙａｍａ」で伝えられたのはよかった。

○　４月１４日(金)のさんいんスペシャル「子育て　まち育て　石見銀山物語～冬編」を見た。山陰地方全体で人口減少、高齢化が進む中で、島根県大田市大森町には人が集まっているという。みんなで協力して子どもを育てる町の暮らしを追い、希望の持てる内容だった。一方、人が離れる要因となるようなネガティブな側面はこの地域にもあると思う。移住者がどう感じているのかがわかると、課題が浮き彫りになるのではないかと思った。

（ＮＨＫ側）

「子育て　まち育て　石見銀山物語」はいつも好評をいただいており、田舎ならではの温かさを表現していることも理由だと思う。一方、この番組とは別の視点として、移住してきた人たち、離れていった人たちそれぞれの考えを対比することは地域の課題を考える上で重要だ。地域放送番組のテーマとして検討していきたい。

○　４月１４日(金)のさんいんスペシャル「鳥取の精鋭～未来をひらく開拓者たち～」を見た。「精鋭」の人たちからは希望のメッセージを感じた。バランスが難しいと承知しているが、活躍の様子だけでなく、取り組みの陰にある切迫した課題感にも正面から向き合って描けば、より深みが出たのではないかと思った。

（ＮＨＫ側）

「鳥取の精鋭」では、取り上げる主人公の奮闘ぶりなどポジティブな姿を中心に紹介して、活動の背景などは時間の関係もあってかなり省いた。主人公を取り巻く厳しい状況も描くことで頑張りが際立つかもしれない。今後の参考にしたい。

○　４月１８日(火)の「しまねっとＮＥＷＳ６１０」で、未就学児のいる都市部の家族が大田市大森町での暮らしを体験する取り組みについてニュースが放送された。「子育て　まち育て　石見銀山物語」の舞台での新しい取り組みに注目し、今後の番組企画につなげることを期待する。

４月１９日(水)の「しまねっとＮＥＷＳ６１０」で放送されたいまコレ！しまね「海のやっかいもの『アカモク』を活用」は、海藻のアカモクと獣害対策で駆除したイノシシ肉を組み合わせた料理の開発など興味深く、地元の取り組みとして応援する気持ちで見た。リポーターが「アカモクスコーン」を食べた感想として「磯とバターの香り」と表現していたが、あのスコーンを作った店では乳製品を使わない。放送で紹介するときはしっかり調べて正しい情報を発信してほしい。

（ＮＨＫ側）

大森町での暮らしを体験する取り組みについてのニュースなど、地域の課題やその解決をテーマに取材を積み重ねる中で「さんいんスペシャル」などの番組に発展させていきたい。

「いまコレ！しまね」でコメントしたスコーンの材料に関しては、リポーターが勘違いしていたと思うので確認する。

○　４月６日(木)のあしたが変わるトリセツショー「缶詰の達人大集結！超時短でプロの味」で、島根県浜田市の会社が販売している魚の缶詰が紹介された。製造のきっかけとなった作り手の思いが番組を通して全国に伝えられたのが、地元の人間としてうれしかった。今回のような、地方のさまざまな産品を全国に発信する取り組みは今後も続けてほしい。

○　４月９日(日)の「どーも、ＮＨＫ」を見た。松江局が若者に応募を呼びかけた手紙から島根出身のバンド・Ｏｍｏｉｎｏｔａｋｅが松江局開局９０周年のテーマソングを制作するまでの過程が紹介されていた。手紙を託されて楽曲を制作したバンドのメンバーの思いが丁寧に描かれ、出来上がった歌を聴いた手紙の送り主の１人の感想も取り入れられていてよかった。何より曲がすばらしいと思った。また、「しまねっとＮＥＷＳ６１０」のエンディングでテーマソングが流れるとき、大切な歌詞も画面に表示されるのがよい。

（ＮＨＫ側）

「どーも、ＮＨＫ」では地域放送局の取り組みを紹介しており、松江局開局９０周年のテーマソング制作について取材を依頼し取り上げてもらった。手紙をくれた若者が、放送に流れた歌を聴いた感想までフォローして伝えた構成はよかった。

○　４月１１日(火)午前５時台の「マイあさ！」で聴取者からのお便りが紹介されたが、午前５時５５分に急に途切れて中国地方の気象情報になり、午前６時台におわびの後にお便りの続きが読まれた。不快に感じたので、番組進行をしっかり管理してほしい。

（ＮＨＫ側）

「マイあさ！」でお便りの紹介が途切れた件は、定時の放送時間内で読み終えられなかったものと思われる。委員の指摘を担当部署に伝えたい。

ＮＨＫ広島放送局
番組審議会事務局